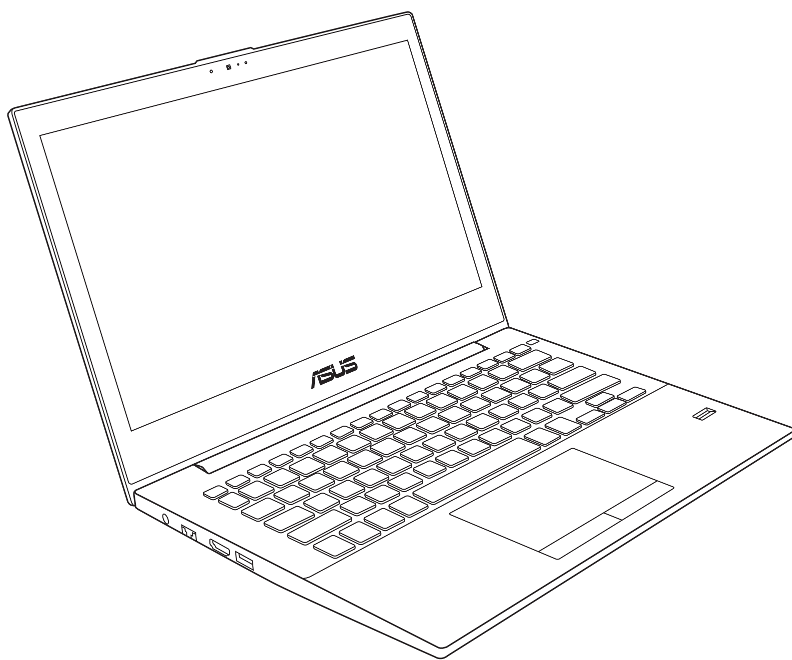




J7602

ノートパソコン
ユーザーマニュアル



2013年2月





もくじ







付録













1 ノートパソコンを準備する







本マニュアルについて

本書は、本機のユーザーマニュアルです。本書では本機の構成部品の説明やその使い方について説明します。本書は以下のChapterから構成されています。

1. **ノートパソコンを準備する**
   ノートパソコンの基本的な取り扱い方の説明です。
2. **各部の名称と説明**
   本機の構成部品について解説します。
3. **使用の手引き**
   本機を最初にお使いになる時に必要な情報です。
4. **ノートパソコンを使用する**
   本機の各機能の使い方です。
5. **付録**
   オプションの紹介と参考資料です。



製品の仕様はモデル毎、ご購入いただいた地域、搭載されているOSによって異なります。本マニュアルに記載の画像とご使用のコンピューター上の画面が異なる場合があります。本マニュアルは参照用としてお使いください。記載されているURLは予告なく変更される場合があります。

本マニュアルの表記について

注意事項等は重要性によって以下のように区別されています。



警告：本体の破損、データの消失および人体への障害を防止するための情報です。



重要：本体の破損、データの消失および人体への障害を防止するために必ず従わなければならない事項です。



ヒント：作業の参考になるヒントです。



注：作業を完了するために必要な追加情報です。







安全上の注意

本機を末長くお使いいただくために以下の注意事項を守ってください。本マニュアルに記載されていない事項については、技術者または弊社コールセンターにご相談ください。



本機のお手入れの際は、電源を切りACアダプターを取り外してください。清潔なスポンジまたは柔らかい布に研磨材の含まれていない洗剤を温水で薄めたものを数滴含ませ、汚れを拭き取ってください。最後に乾いた布を使って余分な水分を完全に取り除いてください。



禁止：平らでない、不安定な場所に置かないでください。筐体を破損した場合には、弊社コールセンターにご連絡ください。



禁止：上に物を置いたり落としたりしないでください。内部に異物が入らないようにしてください。



禁止：ホコリや汚れの多い環境下に置かないでください。ガス漏れの恐れがある場所で使用しないでください。



禁止：強い磁気を近づけないでください。



禁止：ディスプレイを強く押さないでください。パネルを傷つけたり本体に入り込むようような物とは一緒にしたりしないでください。



禁止：液体･雨･湿気を避けてください。雷の発生時はモデムを使用しないでください。



禁止：本機の使用中は、底面が熱くなります。ひざの上など人体に長時間接触させて使用すると火傷を負う恐れがあります。



バッテリーの管理：火中に投じないでください。回路をショートさせないでください。バッテリーを分解しないでください。









周辺温度：本機は10° ～ 35° の周辺温度でご使用ください。



入力定格：本機の底部に記載があります。ACアダプターが対応していることを確認してください。



禁止：本機の電源がONの状態で持ち運んだり、キャリーバッグの中に入れたりしないでください。通気が悪くなり、故障の原因となります。



禁止：本体のお手入れに、シンナー･ベンジンなどの化学薬品を使用しないでください。



禁止：破損した電源コード、アクセサリーまたはその他の周辺機器をご使用にならないでください。



バッテリー：バッテリーは製造元が指定する物をご使用ください。それ以外の物を使用した場合、爆発や本機の故障の原因となります。



リサイクル：本製品のコンポーネントの中にはリサイクルできるよう設計されているものがあります。なお、本製品は水銀ボタン電池を含む電子機器です。本製品を一般ゴミとして廃棄しないでください。リサイクル、廃棄の際は電子機器の廃棄に関する地域の条例等に従ってください。



禁止：バッテリーを一般ゴミとして廃棄しないでください。廃棄の際は電子機器の廃棄に関する地域の条例等に従ってください。



製品の仕様はモデル毎、ご購入いただいた地域、搭載されているOSによって異なります。本マニュアルに記載の画像とご使用のコンピューター上の画面が異なる場合があります。本マニュアルは参照用としてお使いください。







イヤホン及びヘッドホンからの音圧

イヤホンやヘッドホンからの過度な音圧は、難聴などの聴覚障害の原因となる場合があります。ボリュームコントロールやイコライザーを基準値以外に設定した場合、イヤホンやヘッドホンの出力電圧が増加し音圧が高くなることがありますので注意してください 。

ファン(換気装置)

過度な温度上昇を押さえるため、ファンがついています。故障の原因となりますので物などを挟まないよう注意してください。

運搬時の注意

本機を持ち運ぶ場合は、電源をOFFにし、キーボードディスプレイを保護するため、ディスプレイパネルが閉じていることをご確認ください。また周辺機器は全て取り外してください。ハードディスク搭載モデルではハードディスクのヘッドは電源がOFFのとき、ハードディスクの表面に傷が付くのを防ぐため、内部に収納されます。



本機本体の表面の「ツヤ」は、正しく扱わないと失われてしまいます。持ち運ぶ際は本体表面をこすったりひっかいたりしないように注意してください。







ノートパソコン用カバー

本機を汚れ・水・衝撃・傷から保護するために、市販の携帯用カバーなどのご使用をお勧めします。

バッテリーの充電

ACアダプターが本機とコンセントに接続されていれば、バッテリーは自動的に充電されます。本機の電源がONの場合は充電時間は長くなります。なお、長時間バッテリー電源のみを使用する場合は、完全にバッテリーを充電してからご使用ください。

航空機内での使用について

航空機内での本機の使用については、各航空会社にお問い合わせください。多くの航空会社では、電子機器の使用に対して規定を設けています。一般的に離着陸時の電子機器の使用は禁止されています。



空港のセキュリティ装置には 3 つのタイプがあります。X線装置(荷物用)、磁気センサー(セキュリティゲートを通過する人間用)、および磁気ワンド(人間や小物用の短い棒)です。本機やハードディスクをX線装置に通すことは問題ありません。ただし、磁気センサーや磁気ワンドはお避けください。

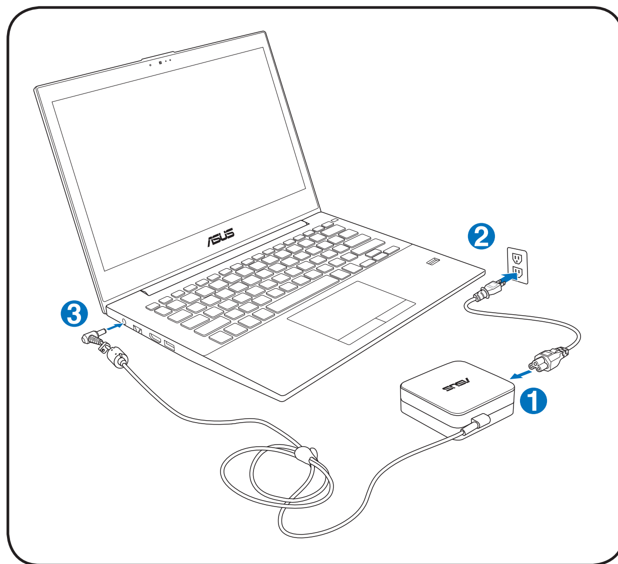




ノートパソコンを準備する

ノートパソコンの基本的な取り扱い方の説明です。

ACアダプターの接続





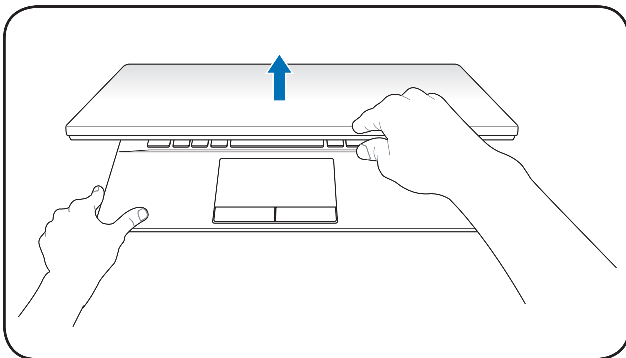
- お買い上げの地域、モデルによりACアダプターのタイプが異なる場合があります。
- 本機の電源を初めてONにするときは、電源アダプターが本機に接続されていることをご確認ください。
- 入出力定格は製品本体に記載があります。ACアダプターが対応していることをご確認ください。モデルによっては、定格出力電流が複数設定されている場合があります。
- 本機を電源アダプターに接続しているときは、電源コンセントや電源タップの近くでご使用ください。
- ACアダプターについて
    - 入力電圧：100-240V
    - 入力周波数：50-60Hz
    - 定格出力電流：3.42A (65W)
    - 定格出力電圧：19V





ディスプレイを開く

1. ディスプレイパネルを親指でやさしく持ち上げます。
2. ゆっくりとディスプレイパネルを前後に傾け、見易い位置に設定します。

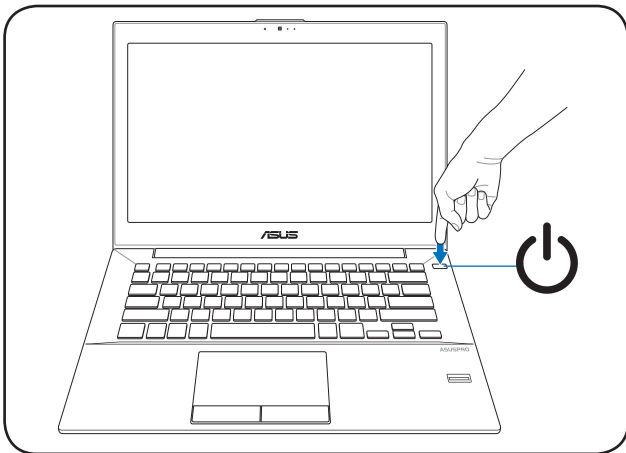


電源をONにする

液晶ディスプレイパネルの下にある、電源ボタンを押します。



製品の仕様はモデル毎、ご購入いただいた地域によって異なります。本マニュアルに記載の画像とご使用のコンピューターの仕様が異なる場合があります。本マニュアルは参照用としてお使いください。









各部の名称と説明 2







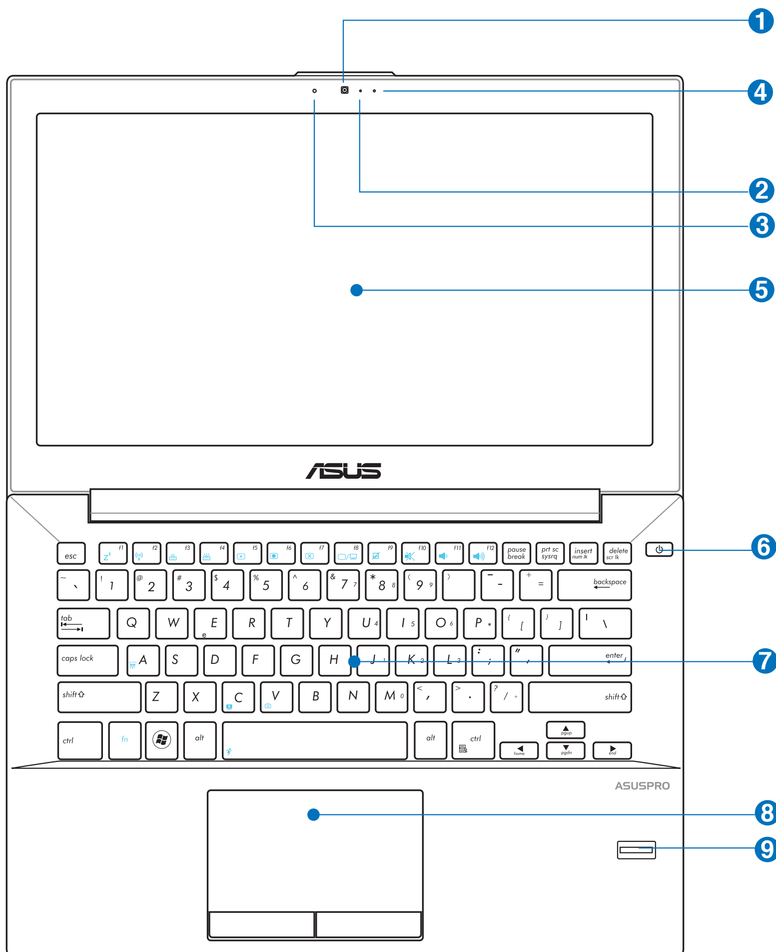
上面



キーボードのレイアウトはお買い上げの地域や搭載されているOSにより異なります。



モデルにより上面の外観は異なります。







❶ **カメラ（特定モデルのみ）**

内蔵カメラにより、画像の撮影と動画の録画ができます。各種アプリケーションやビデオ会議等にご活用ください。

特定のモデルでは、カメラカバーをON/OFFの位置にスライドして、レンズにカバーを掛けることが可能です。

❷ **カメラインジケーター（特定モデルのみ）**

内蔵型カメラの使用時に点灯します。

❸ **ライトセンサー（特定モデルのみ）**

周囲の明るさに応じ、液晶ディスプレイとキーボードの明るさを調節します。

❹ **マイク（内蔵型）**

ビデオ会議や、ナレーション、オーディオの録音、マルチメディアアプリケーション等にご利用ください。

❺ **ディスプレイパネル**

本製品はアクティブマトリックス方式TFT液晶を採用しており、デスクトップモニターと変わらない視認性を発揮します。また、ノイズやちらつきもなく、目に負担をかけませんお手入れの際は、合成洗剤を避け、柔らかい布で拭き取るようにしてください（必要に応じて蒸留水を少し含ませてください）。

❻ **電源ボタン**

電源ボタンは、電源のON/OFFの切り替えや、スリープモード/休止モードに切り替える際に使用します。





❼ スピルプルーフ キーボード

キーボードには十分なストロークを持たせてあり、パームレストが付いているため快適な操作が可能です。

❽ タッチパッドとタッチパッドボタン

タッチパッドとボタンはマウスと同等の機能を提供するポインティングデバイスです。タッチパッドユーティリティをセットアップすれば、ソフトウェア制御のスクロール機能を利用でき、Web画面や文書の閲覧に便利です。

❾ 指紋スキャナー (特定モデルのみ)

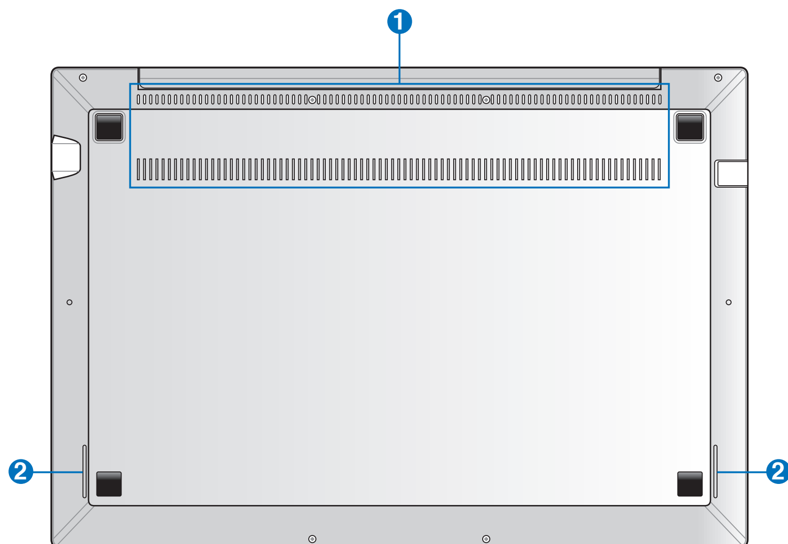
内蔵型指紋スキャナーでは、ユーザーの指紋を登録することでユーザー認証を行うことができます。







底面



❶ **通気孔**

通気孔により本体から熱を逃がします。



通気口からは高温の空気が排気されます。故障や事故の原因となりますので、人体、紙、本、衣類、ケーブルまたはその他の物で通気孔は絶対に塞がないでください。

❷ **オーディオスピーカー**

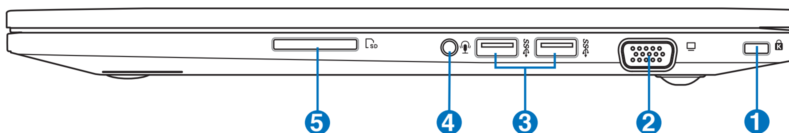
本機搭載のスピーカーにより、Windowsのプログラムイベントなどのサウンドをご確認いただけます。







右側



1 **Kensington® ロックポート**

Kensington®互換ノートパソコンセキュリティ製品と併用して、本機を固定することができます。これらのセキュリティ製品には通常メタルケーブルとロックが含まれ、固定された物体から本機を取り外せないようにすることができます。一部のセキュリティ製品には、動かすとアラームが鳴るものもあります。

2 **ディスプレイ(モニター)出力**

D-Sub15ピンモニターポートは、モニターやプロジェクターなどの標準のVGA互換デバイスをサポートし、それらに画面を表示することが可能です。

3 **USBポート(3.0)**

このUSB 3.0ポートは、最大5 Gbpsのデータ転送速度を提供し、USB 2.0に下位互換性があります。

4 **マイクロフォン/ヘッドホンコンボジャック**

3極ミニプラグをサポートするスピーカーまたはヘッドホン、または3極ミニプラグをサポートするマイクロフォンなどを使用することができます。

注:特定モデルでは4極ミニプラグをサポートしておりますので、マイクを使用する場合は4極タイプのヘッドセットをご使用ください。3極タイプのマイクは使用することはできません。

5 **メモリーカードリーダー**

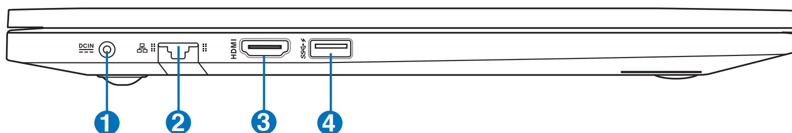
内蔵のカードリーダーはSDカードをサポートしています。







左側



1 DCIN **電源入力**

このジャックに付属のACアダプターを接続します。ACアダプターはAC電源をDC電源に変換し、本機に電力を供給しバッテリーパックを充電します。本機とバッテリーパックの損傷を防ぐため、常に付属のACアダプターを使用するようにしてください。



ACアダプターは使用中高温になることがあります。アダプターを物で覆わないでください。身体に密着して使用しないでください。火傷の原因になります。

2 **LANポート**

8ピンのRJ-45 LANポートはローカルネットワークに接続するための標準イーサネットケーブルをサポートします。増設アダプター不要の便利な内蔵コネクターです。

3 HDMI **HDMI ポート**

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）はTMDS（Transition Minimized Differential Signaling）をベースとする、非圧縮型デジタルオーディオ/ビデオインターフェースです。セットトップボックスやDVDプレーヤー、A/Vレシーバーなどのあらゆるオーディオ/ビデオソース、オーディオ、デジタルテレビ（DTV）、ビデオモニターに対応。標準型/エンハンス/HDビデオをサポートし、これらマルチチャンネルデジタルオーディオを１本のケーブルで転送します。





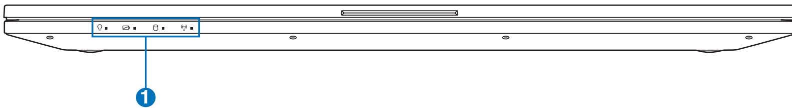


❹ USBポート (3.0)

USB Charger+

本機が電源ONで動作中の時に携帯電話やデジタルオーディオプレーヤーを充電する機能です。

前面



❶ **ステータスインジケーター**

本機のハードウェアの状態を表示します。

電源インジケーター

点灯時は本機の電源はON、点滅時は本機はスリープモードに入っています。

バッテリーインジケーター

色でバッテリーの充電状況を表示します。

ドライブアクティビティインジケーター

本機がハードディスクなどの1つまたは複数の記憶装置にアクセスしていることを示します。

Bluetooth/無線インジケーター (特定モデルのみ)

本機の内蔵のBluetooth機能、無線LAN機能が有効になっているときに点灯します。









3 使用の手引き



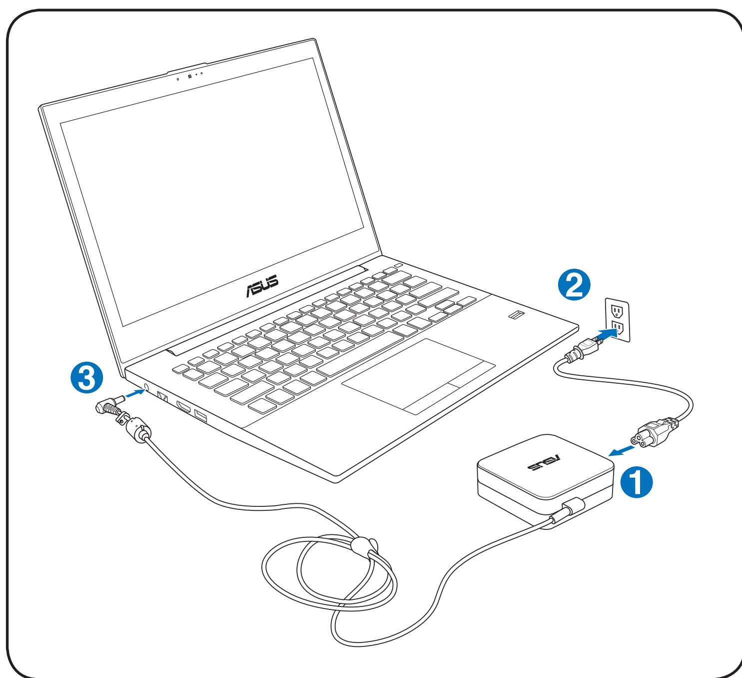




電源システム

ACアダプターを使用する

本機のパワーシステムには、ACアダプターとバッテリーパワーシステムの2つがあります。ACアダプターはAC電源をノートパソコンに使うためにDC電源へ変換するものです。本機にはユニバーサルAC-DCアダプターが付属しているので、スイッチやコンバータを使わずに100V-120Vおよび220V-240Vの電源に接続することができます。国によっては、変換アダプターを使用して、付属の電源コードを異なる規格に変更することが必要な場合もあります。通常、ホテルでは異なる電源コードと電圧をサポートするユニバーサルコンセントを備えていますが、付属のACアダプターを購入国以外で使う場合は、コンセントの電圧について事前にご確認ください。





モデルにより電源入力ジャックの位置は異なります。電源入力ジャックの位置は、本マニュアルの「各部の名称と説明」の記載をご参照ください。LANポートの位置は本マニュアルに記載の「各部の名称と説明」の記載をご参照ください。







市販品では多くの国と地域に対応しているノートパソコン用のトラベルキット（電源アダプター・モデムアダプター）なども販売されています。



市販のトラベルキットについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点はトラベルキットの販売店にご相談ください。



DCプラグを本機に接続する前に、電源コードを電源コンセントに接続しないでください。ACアダプターの故障の原因となる場合があります。



本製品付属のACアダプター以外で本機に電力を供給しないでください。また、付属のACアダプターと電源コードを他の製品に使用しないでください。故障の原因となります。ACアダプターから煙が出たり焦げくさい臭いがした場合や、ACアダプターが異常に熱くなった場合は修理をご依頼ください。故障したACアダプターの使用はバッテリーパックと本機の破損の原因となります。



本製品には、地域によって 2 芯または 3 芯のプラグが添付されています。3 芯プラグの場合は、3 芯用のコンセントまたは適応するアダプターを使用して安全にお使いください。



使用中は高温になることがあります。身体に密着させて使用しないでください。火傷の原因になります。



本機を使用しないときは、安全のためACアダプターと電源コードをコンセントから抜いてください。





バッテリーの取り扱い方

本機のバッテリーパックは、ほかの充電可能なバッテリーと同じく消耗品です。寿命は温度や湿度、および本機の使い方によって異なります。理想的なバッテリーの使用温度範囲は10℃～35℃ですが、(本機の内部温度は外部温度より高くなることを考慮に入れてご使用ください。この範囲外の温度で使用すると、バッテリーは故障する可能性があり、バッテリーの寿命は極端に短くなります。また、正しく使った場合でも、バッテリーパックを使用した際の駆動時間は次第に短くなります。



危険ですので、バッテリーを火中に投じないでください。また回路をショートさせたり、分解したりしないでください。衝撃により異常やダメージがバッテリーパックに発生した場合は本機の電源を切り、弊社コールセンターにお問い合わせください。







電源をONにする

BIOSに入る際はキーを複数回押す必要があり、タイミングがずれるとOSが起動します。<ESC>を押すと、利用可能なデバイスから選択して起動するための起動メニューが表示されます。



電源投入後、OSが起動するまでに画面が何度かちらつくことがあります。これは本機のテストルーチンの一部で、ディスプレイの故障ではありません。



内蔵記憶装置を守るために、電源が切れてから再度電源を入れるまで 5 秒以上時間をおいてください。



本機の電源がONの状態で持ち運んだり、キャリーバッグの中に入れたりしないでください。通気が悪くなり、故障の原因となります。

パワーオンセルフテスト（POST）

本機の電源をONにすると、パワーオンセルフテスト（POST）と呼ばれる一連のソフトウェア制御の診断テストが実行されます。POSTを制御するソフトウェアは、ノートパソコンアーキテクチャの固定部分としてインストールされています。POSTには、本機のハードウェア構成に関する記録が含まれており、システムの診断チェックに使用されます。この記録は、BIOS Setup プログラムを使用することによって作成されます。POSTが記録と既存のハードウェア間の相違を検出すると、BIOS Setupを実行することによって、相違を訂正するように要求するメッセージがスクリーンに表示されます。テストが完了すると、記憶装置にOSがインストールされていない場合は、「Operating system not found」というメッセージが表示されます。これは、記憶装置が正しく検出され、新しいOSをインストールする準備ができたことを示します。





バッテリーの残量の確認

この機能ではバッテリー残量をパーセンテージで表示します。バッテリー駆動時間は省電力機能をどのように使うか、またCPUやメモリー、ディスプレイパネルのサイズなどの仕様によっても異なります。



写真は参照用です。実際はシステムにより異なる場合があります。

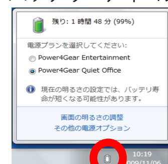


バッテリー残量が少ないままパソコンを使い続けると、コンピューターはスリープ状態になります（Windows 初期設定値はSTR）。

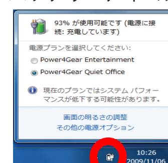




バッテリーアイコンを右クリック



ACアダプター未接続時の
バッテリーアイコン



ACアダプター接続時の
バッテリーアイコン



Suspend-to-RAM （STR）状態でも一定の電力を消費するため、バッテリー残量が少ないと長時間維持できません。Suspend-to-Disk （STD）状態では消費電力は大幅に減りますが、これも電源がOFFの状態とは異なるので、電源が完全になくなるとコンピューターの電源は切れてしまいます（ACアダプターもバッテリーも取り外した場合など）。





バッテリーパックを充電する

外出先でノートパソコンを使用する前に、まずバッテリーパックを充電する必要があります。ノートパソコンにACアダプターを接続することで充電は開始されます。新しいバッテリーパックを使用の際は、バッテリーパックをフル充電してください。バッテリーパックを完全に充電するのに、電源をOFFにしているときは2～3時間かかり、ONにしているときはその倍の時間がかかります。バッテリーパックの充電が完了すると、バッテリーの充電ランプがグリーンに点灯します。



バッテリーの充電は、バッテリー残量が95%以下になると始まります。これはバッテリーが過度に充電されることを防ぐためで、バッテリーの寿命を延ばす効果があります。



気温が高すぎたり、電圧が高すぎるとバッテリーは充電されません。



バッテリーは放電状態のまま放置しないでください。また、充電機能を維持するため、使用しないときは最低3ヶ月に1回充電することをお勧めします。

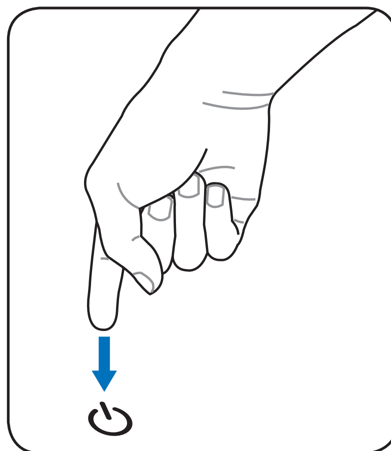




緊急のシャットダウン

ご使用のOSを適切に終了したり再起動したりできなくなった場合は、以下の方法で本機をシャットダウンします。

- 電源ボタン⏻を4秒以上押し続け離します。





データ書き込み中に、シャットダウンを行わないでください。データ消失の原因となります。





電源管理

本製品には各種省電力機能が搭載されており、バッテリーの寿命を最大限に伸ばし、総所有コスト（TCO）の削減に有効です。BIOS Setupプログラムで、これらの機能の一部が設定可能です。起動中に<F2>キーを押してBIOS Setupプログラムに入り、「Security」タブより「I/O Interface Security」を選択します。その中で使用しないInterfaceを [Lock] に設定することにより、指定した各デバイスへの電力供給を停止させ、より長いバッテリー駆動を可能とします。ACPI 電源管理設定はOSを通して行えます。電源管理機能はコンポーネントを頻繁に低消費電力モードにする一方、システムの要求に最大限対応可能で、可能な限り電力を節約できるように設計されています。

スリープと休止状態



電源管理設定はWindowsの「**コントロールパネル**」の「**ハードウェアとサウンド**」→「**電源オプション**」で行います。左メニューの各項目を選択すると、「**電源ボタンを押したときの動作**」、「**スリープボタンを押したときの動作**」、「**カバーを閉じたときの動作**」がそれぞれカスタマイズ可能です。選択オプションはドロップダウンリストから選択してください。「**スリープ**」と「**休止状態**」は、一部のコンポーネントをOFFにすることによって、本機を使用していないときの電力を節約します。作業を再開すると、作業中断状態が再度表示されます。一方「**シャットダウン**」した場合は、全てのアプリケーションが終了します。

熱パワーコントロール

本製品は、3つの電源コントロールで熱を管理します。これらの電源コントロールは、ユーザー設定することはできません。次の温度はCPUではなく、ケースの温度を表しています。

- 温度が上限に達すると、ファンがONになってアクティブ冷却を行います。
- 温度が上限を超えると、CPUは速度を落としてパッシブ冷却を行います。
- 温度が最大上限を超えると、システムはシャットダウンして冷却を行います。



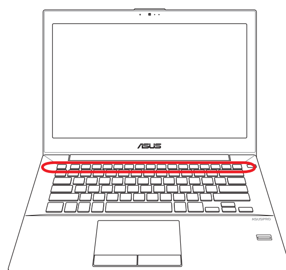




キーボードを使用する

ホットキー（特定モデルのみ）

コマンドが表記されたキーについて説明します。コマンドは、Function キー <Fn>を押しながら、コマンドが表記されたキーを押して実行します。





各ホットキーの位置はモデルによって異なる場合がありますが、機能は同じです。

 
"Z^{Z}" アイコン（F1）：本機をスリープ状態にします。Suspend-to-RAMまたはSuspend-to-Diskは電源管理セットアップでのスリープボタンの設定により決定されます。

 
ラジオタワー（F2）：オンスクリーンディスプレイ（OSD）機能で内蔵無線LAN、またはWiMAX（特定モデルのみ）、Bluetooth（特定モデルのみ）のON/OFFを切り替えます。有効時は、対応する無線インジケーターが点灯します。無線LANまたはBluetoothを使用するにはWindowsやソフトウェア設定が必要です。

 
小さい太陽アイコン（F5）：ディスプレイの明るさを下げます。

 
大きい太陽アイコン（F6）：ディスプレイの明るさを上げます。

 
LCDアイコン（F7）：ディスプレイパネルのON/OFFを切り替えます。







Fn F8 **LCD/モニターアイコン(F8):**本機の液晶ディスプレイと外部モニターを次のように切り替えます。
「液晶ディスプレイ」→「外部モニター」→
「液晶＋外部モニター」
この機能は256色モードでは動作しません。この機能を使用する際はモニターの表示色をHigh Color(16ビット)以上に設定してください。
注意:外部モニターは本機を起動する前に接続してください。

Fn F9 **タッチパッドアイコン(F9) (特定モデルのみ)**: タッチパッドのON/OFFを切り替えます。外付けのマウスを使用しているときなどの誤動作を防ぎます。

Fn F10 **スピーカーアイコン(F10):**スピーカーのON/OFFを切り替えます。

Fn F11 **スピーカーダウンアイコン(F11):**スピーカーのボリュームを下げます。

Fn F12 **スピーカーアップアイコン(F12):**スピーカーのボリュームを上げます。

Fn Insert Num Lk **Num Lk (Ins):**数字キーパッド(数字ロック)のON/OFFを切り替えます。数字入力時にキーボードの大部分を使用できるようにします。**(特定モデルのみ)**

Fn Delete Scr Lk **Scr Lk (Del):**「スクロールロック」のON/OFFを切り替えます。セルをナビゲーションする場合に、キーボードの大部分を使用できるようにします。**(特定モデルのみ)**





Power4Gear Hybrid（<Fn>+<Space Bar>）：Windows OS上でこのボタンを使用して各電力モードの切り替えを行います。省電力モードはノートパソコンを制御し、パフォーマンスを調整しバッテリー時間を最大化します。ACアダプターの脱着に応じ、自動的に適切なモードに切り替えます。使用中のモードはオンスクリーンディスプレイ（OSD）機能で確認することができます。

Fn+Enter（拡張キーボード搭載モデルのみ）：計算機を起動します。このホットキーの機能が利用できるのは、拡張キーボード側の「Enter」キーです。通常のキーボードの「Enter」キーはこの機能には対応していません。**(特定モデルのみ)**

Windows®8 キー(Windows 8搭載モデル)

キーボードには以下の説明のように、2つの特別なWindows® キーがあります。



このキーを押すと、スタート画面に戻ります。スタート画面で押すと、最後に使用した起動中のアプリに戻ります。



マウスの右クリックと同じ操作を行うことができます。

Microsoft Windows キー(Windows 7搭載モデル)

キーボードには以下の説明のように、2つの特別なWindows™キーがあります。



Windows™ロゴの付いたキーは、Windows™画面の左下にある「スタート」メニューを有効にします。



小さなカーソルの付いたWindows™メニューのように見えるキーはプロパティメニューを有効にし、Windows™オブジェクトの右マウスボタンを押すのと同じ働きをします。



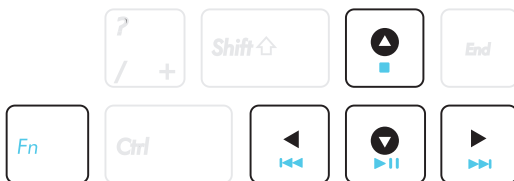


マルチメディアコントロールキー(特定モデルのみ)

マルチメディアアプリケーションを操作する際に便利なキーです。Windows Media Player 搭載PCでの各キーの機能は以下のとおりです。



キーの動作はノートパソコンのモデルにより異なる場合があります。





カーソルキーでマルチメディアコントロール操作を行う際は、<Fn>キーと矢印キーを組み合わせて使用します。



プレイ/ポーズ

メディア停止中に押すと、メディアを再生します。
メディア再生中に押すと、メディアを一時停止します。



ストップ

メディア再生中に押すと、再生を停止します。



スキップ(戻る)

メディア再生中に押すと、ひとつ前のファイル(トラック)を再生します。



スキップ(進む)

メディア再生中に押すと、次のファイル(トラック)を再生します。













ノートパソコンを使用する 4

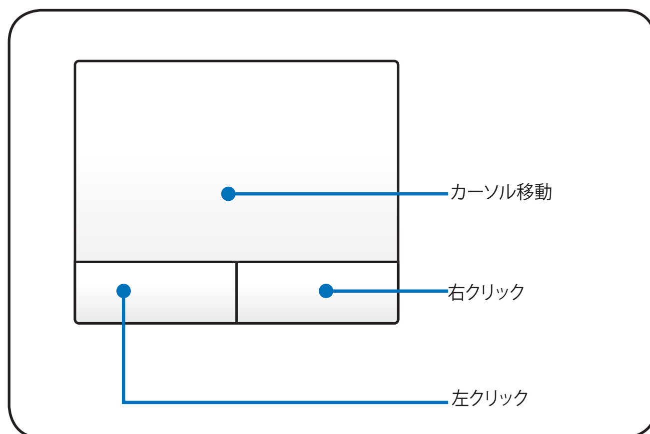






ポインティングデバイス

本機に組み込まれたタッチパッドポインティングデバイスはマウスと完全な互換性があります。タッチパッドは静電式で稼動部分がないため、機械が故障することはありません。ただし、一部のアプリケーションソフトウェアで作動させるためには、デバイスドライバーが必要となります。





タッチパッドの操作には、指以外は使用しないでください。タッチパッドの表面を傷つける恐れがあります。





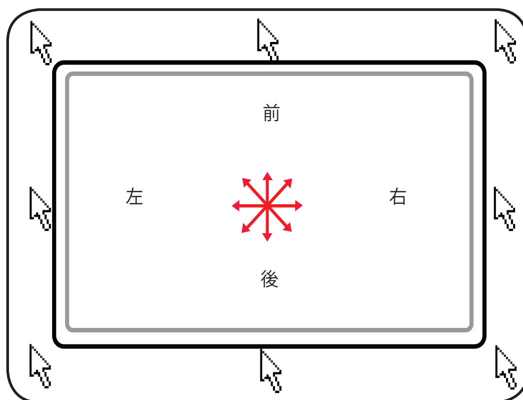


タッチパッドを使用する

タッチパッドの主な機能は、マウスの代わりに指先を使用して、カーソルを移動したり画面に表示された項目を選択することです。タッチパッドの操作は、指先で軽く触れるだけです。タッチパッドは静電気に敏感に反応するため、指以外は使用することはできません。

カーソルの移動

タッチパッドの中央に指を置き、指をスライドさせてカーソルを動かします。

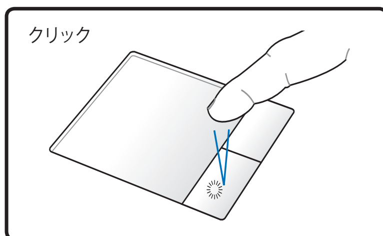




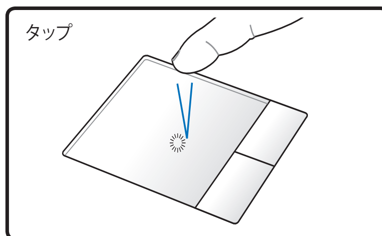


タッチパッドの使い方

クリック/タップ：カーソルをアイテムの上に置いて、左ボタンを押すか、指先でタッチパッドに軽く触れ選択します。選択したアイテムの色が変わります。次の２つの操作の内容は全く同じです。

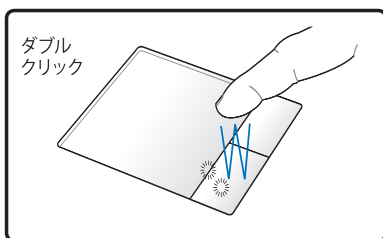


左ボタンを押して離します。

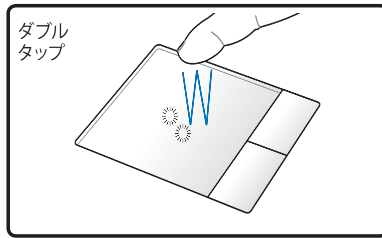


タッチパッドを軽く素早く打ちます。

ダブルクリック/ダブルタップ：選択したアイコンから直接プログラムを起動します。カーソルを実行するアイコンの上に移動し、続けて素早く左ボタンを２度押すか、またはパッドを２度タップすると、選択したプログラムが起動します。クリックまたはタップの間隔が長すぎると、起動できません。ダブルクリック（タップ）の間隔はWindowsの「**コントロールパネル**」→「**ハードウェアとサウンド**」→「**マウス**」から変更することができます。
次の２つの操作の内容は全く同じです。



左ボタンを２度押して離します。



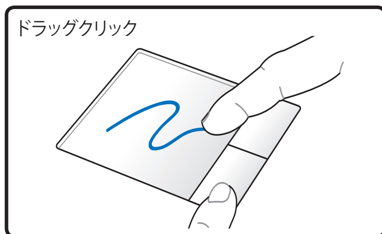
タッチパッドを軽く素早く２度打ちます。



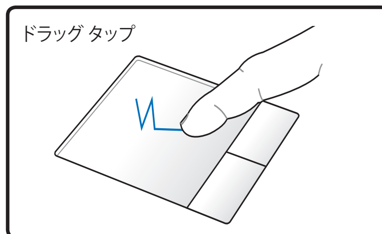




ドラッグ：アイテムを選択し移動します。アイテムの上にカーソルを移動し、左ボタンを押したままカーソルを移動したらボタンを離します。または、アイテムを素早くダブルタップし、指先でアイテムを選択したままドラッグすることもできます。次の２つの操作の内容は全く同じです。

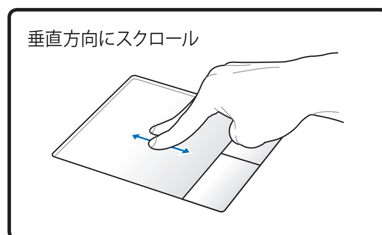


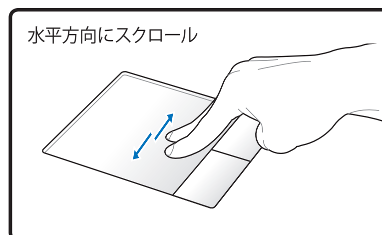
左ボタンを抑えたまま、タッチパッド上で指をスライドさせます。



タッチパッド上で素早く２回タップし、２回目のタップに続けてタッチパッド上で指をスライドさせます。

指２本でのスクロール：２本の指先をタッチパッド上で左右上下にスライドし、ウインドウを上下左右にスクロールします。ディスプレイウインドウに複数のサブウインドウが含まれる場合は、スクロールする前に、カーソルを使用するウインドウ枠に移動します。

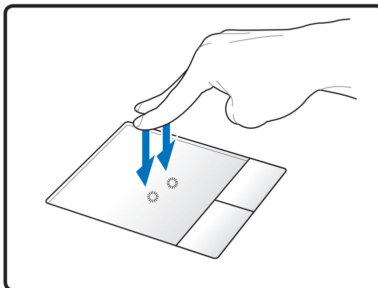




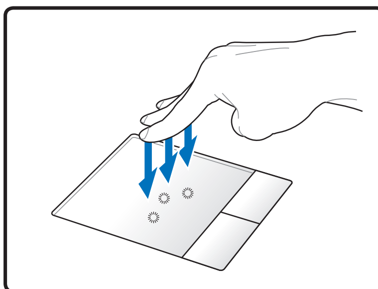




指 2 本でのタップ：指2本でタッチパッドをタップします。ポップアップメニューを表示することができます。



指 3 本でのタップ： 3 本の指をタッチパッド上でタップします。この操作はマウスの右クリックに相当します。





ボタンやタッピングの動作はタッチパッドポインティングデバイスの制御ソフトウェア上で変更することが可能です。また、モデルにより操作や仕様が異なる場合があります。







タッチパッドのお手入れ

タッチパッドは静電式です。適切に取り扱わないと故障する可能性が非常に高くなります。次の注意事項を必ず守ってお使いください。

- タッチパッドに埃、液体、油分を付着させない。
- 汚れた指、濡れた指で、タッチパッドに触れない。
- タッチパッドやタッチパッドのボタンに物を置かない。
- 爪や硬い物等でタッチパッドを傷つけない。



タッチパッドは静電式です。表面を強くタップする必要はありません。強くタップしてもタッチパッドの感度は増しません。タッチパッドは軽い圧力にもっとも良く反応します。



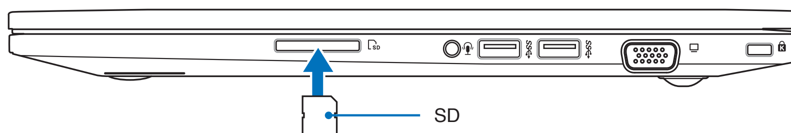


フラッシュメモリーカードリーダー

デジタルカメラやMP3プレイヤー、携帯電話、PDAなどで使用可能なフラッシュメモリーカードを使用するには通常、カードリーダーの購入が必要ですが、本ノートパソコンにはカードリーダーが1基内蔵されており、以下のフラッシュメモリーカードを読み取ることができます。内蔵のカードリーダーは便利であるだけでなく、高いバンド幅のPCIバスを採用しているため、他の形式のカードリーダーより高速で動作します。



フラッシュメモリーカードの互換性は、ノートパソコンのモデルとフラッシュメモリーカードの仕様に左右されます。また、フラッシュメモリーカードの仕様は常に変更されており、互換性も予告なく変更されることがあります。





フラッシュメモリースロットの位置はモデルにより異なります。スロットの位置は本マニュアルの「各部の名称と説明」の記載をご参照ください。



データが消失する恐れがありますので、データの読み込みやコピー、フォーマット、削除などの処理中および処理直後は、カードを取り外さないでください。



データ消失を避けるために、フラッシュメモリーカードを取り外す際は、タスクトレイの「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」をご利用ください。







接続

ネットワーク接続

RJ-45のコネクターが両端に付いているケーブルを使用します。ケーブルの一方をノートパソコン上のネットワークポートに、もう一方をモデム、ルーターの末端に繋ぎます。100BASE-TX/1000 BASE-Tの場合は、カテゴリ5以上（カテゴリ3ではない）のネットワークケーブルとツイストペアケーブルが必要です。100/1000Mbpsのインターフェイスで稼動する予定の場合は、100BASE-TXハブ/1000 BASE-Tハブ（BASE-T4ハブではない）に接続する必要があります。10BASE-Tの場合はカテゴリ3、4、または5のツイストペアケーブルを使用します。10/100 Mbps Full-Duplex（全二重通信）はこのノートパソコンでサポートされていますが、「Duplex（二重）」を有効にしてスイッチングハブに接続する必要があります。ソフトウェアの初期設定には最速の設定が使用されています。



1000BASE-T（またはGigabit）は特定モデルのみでのサポートです。



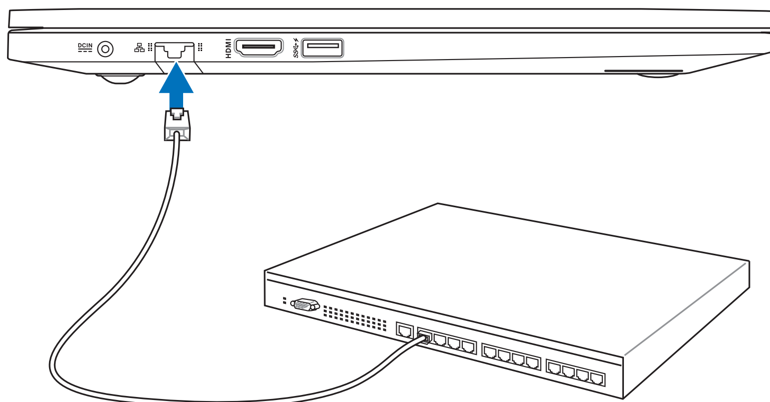




ツイストペアケーブル

ノートパソコンをホスト（一般には、ハブまたはスイッチ）に接続するために使用されるケーブルは、TPE（ツイストペアイーサネット）ケーブルと呼ばれています。エンドコネクターはRJ-45コネクターと呼ばれ、RJ-11電話コネクターと互換性がありません。ハブを介さずに2台のコンピューターを接続する場合、クロスケーブルが必要です（ファストイーサネットモデル）。ギガビットモデルはオートクロスオーバー機能に対応しています。

モデムまたはルーターとノートパソコンの内蔵イーサネットコントローラーとを接続した例





モデルによりLANポートの位置は異なります。LANポートの位置は本マニュアルに記載の「各部の名称と説明」の記載をご参照ください。







無線LAN接続

内蔵無線LANは、コンパクト設計の無線イーサネットアダプターです。無線LAN（WLAN）に対応し、周波数2.4GHz/5GHz、DSSS（Direct Sequence Spread Spectrum）とOFDM（Orthogonal Frequency Division Multiplexing）技術で高速データ通信を可能にしました。また、初期のIEEE802.11規格にも下位互換性があります。

内蔵無線LANはクライアントアダプターで、インフラストラクチャモードとアドホックモード両方に対応します。無線ネットワークの設定に幅がでます。アクセスポイントとクライアントの距離は最高40メートルです。

セキュリティをより効果的にするため、内蔵無線LANには64bit/128bit WEP（Wired Equivalent Privacy）暗号化方式とWPA（Wi-Fi Protected Access）機能が採用されています。



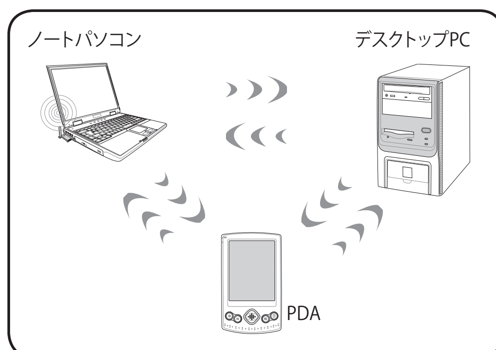
セキュリティの観点から、不明なネットワークには接続しないでください。暗号化設定がされていないネットワークでは、ユーザーの情報が第三者に流失する恐れがあります。





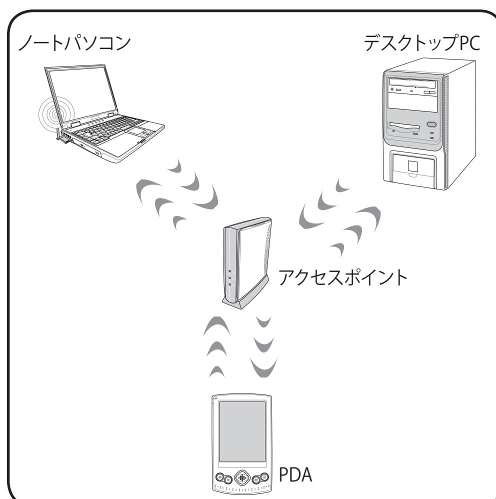
アドホックモード

ノートパソコンを他の無線デバイスに接続することができます。アクセスポイントは不要です。



インフラストラクチャモード

ノートパソコンと他の無線デバイスをアクセスポイントで構築された無線ネットワークに加えることができます。無線クライアント用にセントラルリンクを提供し、無線ネットワーク同士または有線ネットワーク間のコミュニケーションが可能です。









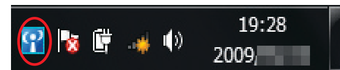
ワイヤレスネットワークへの接続

Windows 7環境での接続

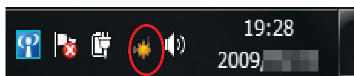


1a. <Fn> + <F2>を押し、無線LANをON にしてください。

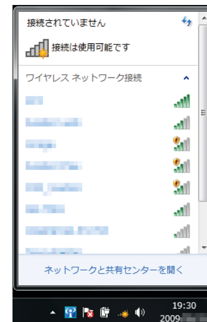




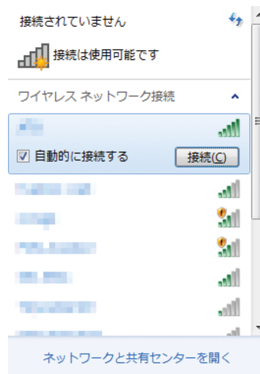
1b. または、タスクトレイに表示されている「**Wireless Console**」アイコンをダブルクリックし、WLANアイコンをクリックしてONにします。



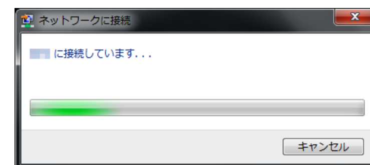
2. タスクトレイに表示されたネットワークアイコンをクリックします。



3.周囲で検出されたワイヤレスネットワークの一覧が表示されます。



4. 接続するワイヤレスネットワークの名前をクリックします。周囲のワイヤレスネットワークを再検出するには画面右上の矢印アイコンをクリックします。



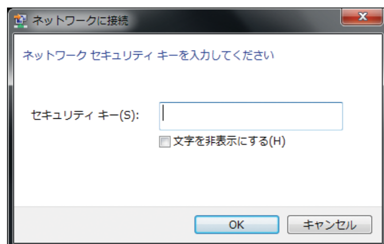
5. 「**接続**」をクリックするとワイヤレスネットワークへの接続が開始されます。







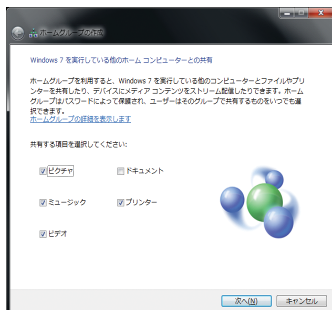




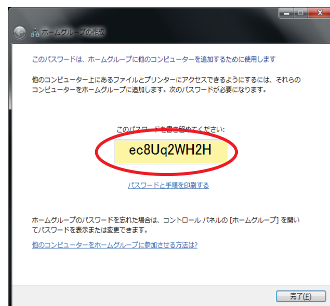
6. 接続するネットワークにセキュリティキーが設定されている場合は、セキュリティキーを入力し、「**OK**」をクリックします。



7. ワイヤレスネットワークの接続が成功したら、ネットワークの場所を選択します。ご利用のネットワーク環境を選択しクリックします。



8. 「**ホームネットワーク**」を選択した場合、ホームグループの共有する項目の設定画面が表示されます。ご利用環境に応じて設定します。この作業はキャンセルすることが可能です。



9. 共有する項目の設定をし、「**次へ**」をクリックするとホームグループのパスワードが表示されます。このパスワードを書き留める、または印刷をし「**完了**」をクリックします。



無線LANスイッチがあるモデルは事前に無線LANスイッチをONにする必要があります。(モデルにより異なります)



ネットワークの接続方法についてはご利用のネットワーク機器によって異なる場合がございます。その場合はネットワーク管理者やネットワーク機器メーカーにお問い合わせください。







Windows 8環境での接続

Wi-Fi

本機に搭載のWi-Fi機能により、SNSを使用したアプリの共有、メールの閲覧、インターネットサーフィン等がお楽しみいただけます。

> **重要：**Wi-Fi機能を使用する際は、「機内モード」をOFFにする必要があります。詳細は「機内モード」をご参照ください。

Wi-Fiを有効にする

1. チャームバーを起動します。
2. 「**設定**」 設定 をタップし「**Wi-Fi機能**」 利用可能 をタップします。

> **注：**「機内モード」が有効な場合は 機内モード が表示されており、機内モードをオフにする必要があります。

3. 利用可能なWi-Fi接続のリストからアクセスポイントを1つ選択します。









4. 「**接続**」をタップし、ネットワーク接続を開始します。

注：Wi-Fi接続を開始するときに、セキュリティキーの入力が求められる場合があります。

5. 本機と他の無線システムで接続を共有する場合は、「**はい、共有をONにしてデバイスに接続します**」をタップします。共有しない場合は、「**いいえ、共有をONにせずデバイスに接続しません**」をタップします。



無線LANスイッチがあるモデルは事前に無線LANスイッチをONにする必要があります。（モデルにより異なります）



ネットワークの接続方法についてはご利用のネットワーク機器によって異なる場合がございます。その場合はネットワーク管理者やネットワーク機器メーカーにお問い合わせください。





Bluetooth 接続(特定モデルのみ)

Windows 7環境での接続

Bluetooth 技術により、Bluetooth を有効にしたデバイスを接続する際、ケーブルが不要になります。Bluetooth 接続が可能なデバイスは、ノートパソコン、デスクトップPC、携帯電話、PDA等があります。



お使いのノートパソコンに内蔵Bluetooth が搭載されていない場合は、USBまたはPCカードBluetoothモジュールの接続が必要です。

Bluetooth 対応携帯電話

携帯電話とBluetooth接続が可能です。機種により、電話帳や画像、音声ファイル等の転送が可能です。

Bluetooth 対応コンピューター/PDA

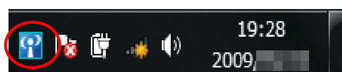
他のPCやPDAに無線接続し、データや周辺機器、インターネット接続の共有が可能です。また、Bluetooth 対応の無線キーボードやマウスも利用することができます。

ユーティリティを起動する

このセットアップ方法はほとんどのBluetooth デバイスでご利用いただけます。

1. 無線LANやBluetoothスイッチがあるモデルはスイッチをONにします。
(モデルにより異なります)







2a. <Fn> + <F2>を押し、Bluetooth をONにしてください。

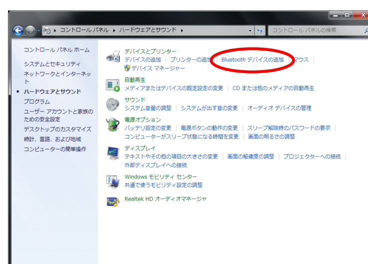
2b. または、タスクトレイにある「**Wireless Console**」アイコンをダブルクリックし、Bluetoothのアイコンをクリックし ONにします。











3a. タスクトレイにある Bluetoothアイコンをクリックし「**デバイスの追加**」をクリックします。

3b. または、「**スタート**」→「**コントロールパネル**」→「**ハードウェアとサウンド**」→「**Bluetoothデバイスの追加**」の順にクリックします。





4. 接続をするBluetoothデバイスを選択し「**次へ**」をクリックします。この時Bluetoothデバイスは、電源を入れ接続（ペアリング）待機状態になっている事を確認してください。

5. Bluetoothデバイスとの接続（ペアリング）が開始されます。

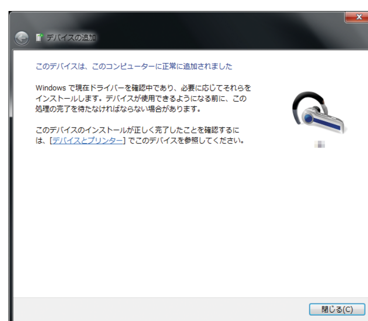






6. デバイスによりパスキーを接続するBluetoothデバイス、またはPC側で入力する必要があります。

※ パスキーは、パスコード、PINコード、PINナンバー、パスワードなどとも表記される場合があります。



7. Bluetoothデバイスとの接続（ペアリング）が完了すると、デバイスのドライバーがインストールされます。「**閉じる**」をクリックしウィンドウを閉じてください。



Bluetoothデバイスのパスコードや詳しい操作方法、仕様は各製品マニュアル、またはBluetoothデバイスのメーカーにお問い合わせください。







Windows 8環境での接続

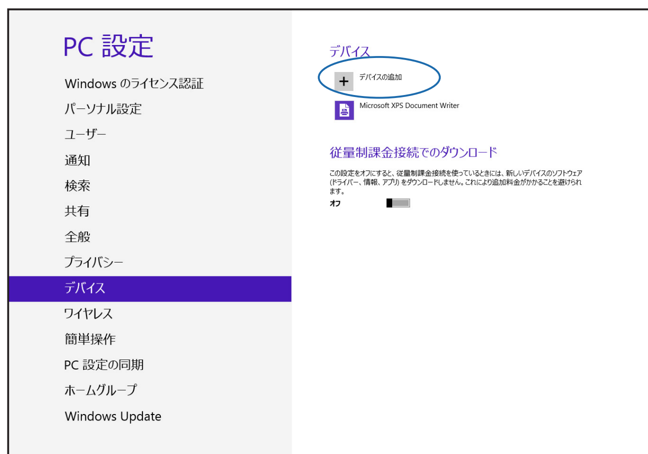
Bluetoothデバイス間では、ファイル転送、インターネット接続やネットワーク接続の共有などが可能です。

重要：Bluetooth機能を使用する際は、「機内モード」をOFFにする必要があります。詳細は「機内モード」をご参照ください。

Bluetooth対応デバイスとのペアリング

データ転送を可能にするために、他のBluetooth対応デバイスと本機のペアリングを行う必要があります。タッチスクリーンディスプレイパネルまたはタッチパッドを使用し、次の手順で設定を行います。

1. チャームバーを起動します。
2. 「**設定**」 設定 をタップし「**PC設定の変更**」をタップします。
3. 「**PC設定**」の「**デバイス**」を選択し、「**デバイスの追加**」をタップし、Bluetooth対応デバイスを検索します。



4. リストからデバイスを選択し、画面の指示に従いペアリングを行います。

注： 一部のBluetooth対応デバイスでは、本機のパスコードを入力するよう求められる場合があります。







TPM (Trusted Platform Module) (特定モデルのみ)

TPM (Trusted Platform Module) はシステムボード上のセキュリティチップで、ハードウェア上で機能するため、外部からの攻撃に強く、認証に用いる暗号キーなどをハードディスクに格納する方法などに比べ、より高いレベルで安全に格納・管理することが可能です。

このセキュリティ機能は、次の括弧内に記載した各TPMの持つ暗号化機能によりサポートされています (ハッシュ、乱数生成、非対称キー生成、非対称暗号化/複合化) 。各システムの各TPMは、シリコン製造過程に初期化された独自の署名を持ち、安全性を強化しています。

TPMアプリケーション

TPMはシステムセキュリティを強化します。TPMはオプションのセキュリティソフトと併用することで、システム全体のセキュリティ、ファイルの保護、プライバシー保護を強化することができ、より高いレベルでの安全性を提供します。



特定モデルでは、TPMは初期設定では無効になっています。
BIOS Setup プログラムで有効にしてください。





TPMサポートを有効にする

BIOS Setup プログラムを起動します（システム起動時に<F2>キーを押す）。BIOS Setup プログラムから「**Advanced**」→「**Trusted Computing**」の順に進み、「**TPM Support**」を〔**Enabled**〕に設定します。





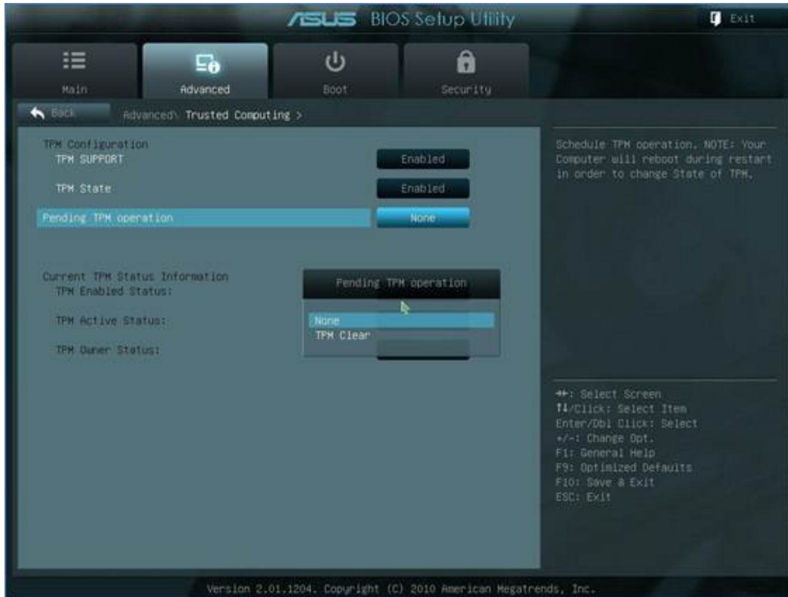
TPMセキュリティデータをバックアップする際は、TPMアプリケーションの「**バックアップ**」または「**移行**」機能を使用してください。





TPMデータをクリアする

「**TPM State**」が [Enabled] に設定されると、「**Pending TPM Operation**」と表示されます。TPMデータを全てクリアする場合はこの項目を〔**TPM Clear**〕に設定し、クリアしない場合は〔**None**〕に設定します。





TPMデータは定期的にバックアップしてください。





USB Charger+

USB充電に対応しているデバイスを特定のUSB3.0ポートで急速充電することができます。
特定モデルでは、ノートパソコンの電源モード（ON/OFF/スリープ/休止状態）に関わらず、USBデバイスをUSBポートで充電することができます。

注：⚡アイコンのあるUSB 3.0ポートでのみ USB Charger+機能がご利用いただけます。すべてのUSB機器の充電を保証するわけではありません。

警告：接続したデバイスがオーバヒートした場合は、接続しているデバイスを直ちに取り外してください。

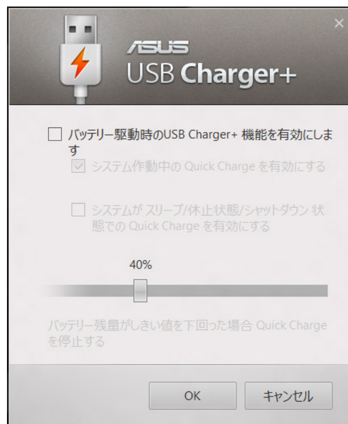
USB Charger+ の設定

USB Charger+ では、ノートパソコンがバッテリー電力駆動時の、USBデバイスへの充電を制限することでバッテリー電力を温存することができます。

注：設定は電源OFF/スリープ/休止状態での急速充電をサポートしているモデルのみ可能です。



1. デスクトップのタスクトレイのUSB Charger+ アイコン を右クリックし、「**設定**」をクリックします。
2. 「**バッテリー駆動時のUSB Charger+ 機能を有効にします**」を選択します。





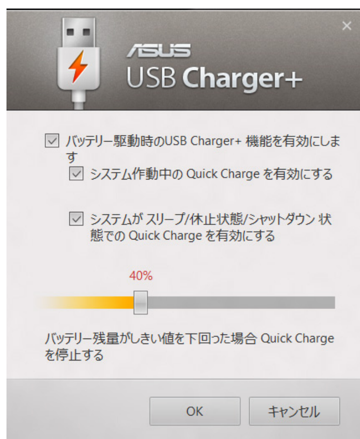




3. 次のいずれかのオプション、または両方を選択します。

「システム作動中のQuick Chargeを有効にする」

「システムがスリープ/休止状態/シャットダウン状態でのQuick Chargeを有効にする」



注：モデルによっては両方のオプションが自動選択されます。これらの項目は無効に設定することもできます。

4. スライドバーで本機のバッテリー残量を%で設定します。本機のバッテリー残量がここで設定した%になると、急速充電を停止します。

5. 「**OK**」をクリックし、設定を保存します。または「**キャンセル**」を選択します。

注：モデルにより搭載されているアプリ、操作方法および仕様が異なる場合があります。









5 付録







OSとソフトウェア

本機には、Microsoft Windows OSが予めインストールされています。ハードウェアとソフトウェアのサポートは、プリインストールされているOSのみとなります。なお、サポート外のOSの安定性と互換性は保証できません。

サポートするソフトウェア

特定モデルには、ドライバー、アプリケーションをコンテンツに含むサポートディスクが付属しています。ノートパソコンのハードウェアの特性を有効にし、機能を拡張し、管理を容易にします。また、OSで提供していない機能を追加することもできます。サポートディスク内のドライバー等の更新や交換が必要になった場合は、Webサイトから個別のソフトウェアドライバーやユーティリティをダウンロードしてください。

サポートディスクには、OS用のドライバー、ユーティリティが含まれています。ただし、OS自体はサポートディスクには含まれていません。出荷時にインストールされていないソフトウェアをインストールする際等にサポートディスクをご使用ください。



デバイスドライバーやユーティリティをインストールしないと動作しないコンポーネントや機能もあります。



プリインストールソフトウェアは管理者権限でのみ動作を保証しております。







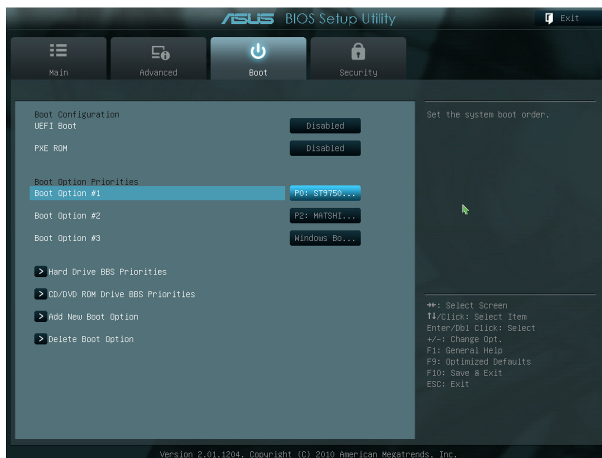
システムBIOS設定



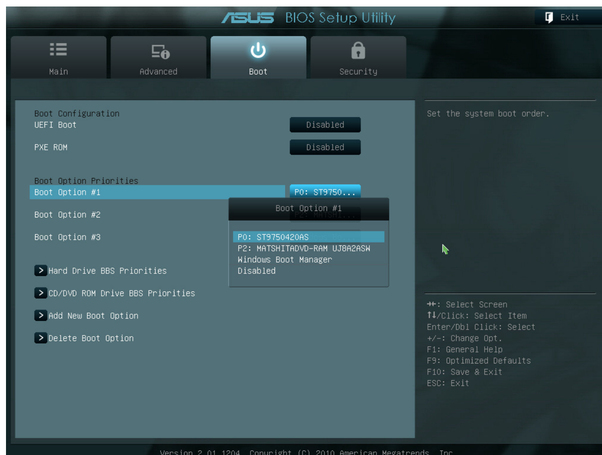
本マニュアルに記載の図や画面は参考用です。実際の画面はモデルや地域により異なります。

Boot Device（起動デバイス）

1. 「**Boot**」画面で「**Boot Option #1**」を選択します。



2. [Enter] を押して Boot Option #1 のデバイスを選択します。







Security Setting（セキュリティ設定）



パスワードの設定

1. 「**Security**」タブを選択し、「**Setup Administrator Password**」または「**User Password**」を選択します。
2. パスワードを入力し、[Enter]を押します。
3. パスワードを再入力し、[Enter] を押します。
4. パスワードが設定されました。

パスワードを削除する

1. 「**Security**」タブを選択し、「**Setup Administrator Password**」または「**User Password**」を選択します。
2. 現在のパスワードを入力し、[Enter] を選択します。
3. 「**Create New Password**」の欄を空欄にしたまま、[Enter] を押します。
4. 「**Confirm New Password**」の欄を空欄にしたまま、[Enter] を押します。
5. パスワードが削除されました。



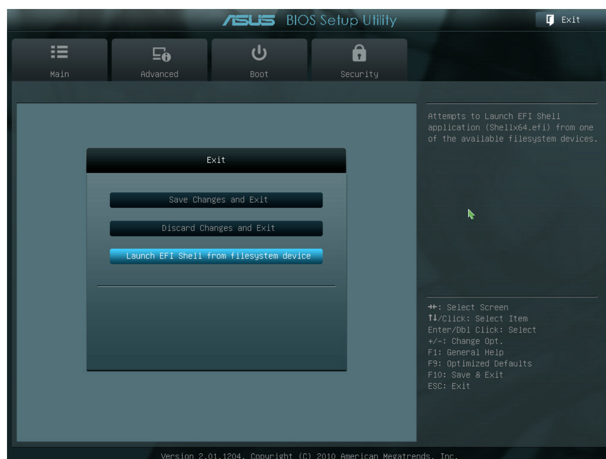




Save Changes（変更を保存）

設定の変更を保存するには、BIOSから退出する際に変更を保存します。

初期設定値に戻すには、<F9>を押し「**Optimized Defaults**」を実行します。初期設定に戻した後は、BIOSから退出する際に変更を保存する必要があります。







システムリカバリー
Windows 7環境

リカバリーパーティションには、工場出荷時にコンピュータにインストールされたOSイメージ及び 各ドライバ、各ユーティリティ等が保存されています。リカバリーパーティションは優れたリカバリーソリューションで、ハードディスクドライブが正常に動作していれば、ノートパソコンのシステムとソフトウェアを出荷時の状態に素早く復元します。この機能を使用する前には必ずデータファイル (Outlook PST ファイルなど) をUSBフラッシュメモリーやネットワークドライブなどにコピーし、また各ユーザー設定 (ネットワーク設定等) もバックアップしてください。

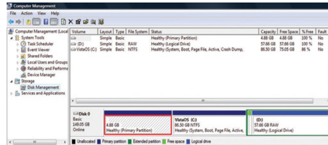
ハードディスクのリカバリーパーティションを使用する

リカバリーパーティションについて

リカバリーパーティションは ハードディスク上に確保されたスペースで、OSや各ドライバ、ユーティリティなどが工場出荷時の状態で保存されています。



ディスク０に存在する無名のプライマリパーティションは削除しないでください。リカバリーパーティションは工場で作成され、一度削除するとユーザーは復元することができません。リカバリー中に問題が発生した場合は、弊社コールセンターまでご連絡ください。



リカバリーパーティションを使用する

1. 電源ボタンを押し、起動中に <F9> キーを押します (リカバリーパーティションが必要)
2. 「**Windows Setup [EMS Enabled]**」を選択し<Enter> を押します。特定モデルでは「**Windows 7**」と表示されます。
3. プルダウンメニューから「**Japanese (日本語)**」を選択し、「**Next**」をクリックします。
4. 表示された注意書きを必ず確認頂いた後、「**次へ**」をクリックします。
5. パーティションオプションを選択し、「**次へ**」をクリックします。オプションは以下の3つです。

    HDDの1つめのパーティションに対して、Windowsリカバリーを実施します。

    １つ目のパーティションのみを削除します。他のパーティションはそのままで、パーティションＣ部分のみ削除の後に、再構成を実施します。

    HDDを新たに1パーティションで管理し、Windowsカバリーを実施します。

    ハードディスクからパーティションを全て削除し、新しいシステムパーティション；ドライブ「C」を作成します。

    HDDを新たに2パーティションで管理し、Windowsカバリーを実施します。

    ハードディスクからパーティションを全て削除し、新しいシステムパーティション「C」と「D」を作成します。







記憶装置の表示はモデルにより異なり、「HDD」、「SDD」、「記憶装置」などで表示されます。

6. その後は画面上の指示に沿って、リカバリーを完了してください。



特定モデルにはHDDが2本搭載されておりますが、リカバリーはHDD1（ディスク0）のパーティションに対して実行されます。ドライブレターはシステム構築時に自動で割り当てられるため、リカバリーを行った際は、リカバリー前と比べドライブレターが変更となる場合があります。



リカバリー完了のメッセージ、もしくはWindowsの初期セットアップ画面が表示されるまでは、何度か再起動が行われる場合もありますが、パソコンの操作は行わないで下さい。リカバリー中に操作などを行った場合、リカバリーに失敗する場合があります。
※リカバリー完了時の動作はモデルにより異なります。



最新のドライバとユーティリティはASUSのサイトをご覧ください。（http://www.asus.co.jp/）



「手順3」で「Japanese（日本語）」以外を選択してリカバリーした場合、リカバリーが正常に動作しない可能性がございます。どの言語を選択した場合も、リカバリーされるシステムは日本語のみとなります。



記憶装置の容量によっては、1パーティション;「C」でのリカバリーしか選択できません。





Windows 8環境

注:お使いのモデルによっては、リカバリーパーティションにWindows 7用のイメージがインストールされている為、こちらの機能はご利用頂けません。Windows 7 Professional へ切り替え可能なモデルではスタート画面に配置されているASUS Recovery Launcher(モデルにより名称が異なる場合があります)より切り替え処理が実施可能です。

POST中に を押すと、次のWindows®8トラブルシューティングのオプションにアクセスできます。

- **PCのリフレッシュ**
- **PCを初期状態に戻す**
- **詳細オプション**

PCのリフレッシュ

現在のファイルやアプリケーションを失うことなく、システムを更新したい場合は「**PCのリフレッシュ**」オプションを使用します。

POST中にアクセスする



1. システムを再起動し、POST中に を押します。



2. Windows®が「オプションの選択」を読み込むまで待機し、「**トラブルシューティング**」をタップします。
3. 「**PCのリフレッシュ**」をタップします。
4. 「PCのリフレッシュ」画面に表示されるこのオプションに関する説明項目を読み、「**次へ**」をタップします。
5. 更新するアカウントをタップします。
6. アカウントのパスワードを入力し、「**続行**」をタップします。
7. 「**リフレッシュ**」をタップします。

重要:本機のシステム更新を行う前に、本機がACアダプターで電源に接続されていることをご確認ください。

注:ご使用環境などにより、手順などが異なる場合がありますが、その場合は、画面の指示に従って設定を進めてください。







PCを初期状態に戻す

重要：このオプションを実行する前に全てのデータをバックアップしてください。

「**PCを初期状態に戻す**」オプションを使用し、本機をデフォルト設定にリセットします。

POST中にアクセスする



1. システムを再起動し、POST中に [F9] を押します。



2. Windows®が「オプションの選択」を読み込むまで待機し、「**トラブルシューティング**」をタップします。
3. 「**PCを初期状態に戻す**」をタップします。
4. 「PCを初期状態に戻す」画面に表示されるこのオプションに関する説明項目を読み、「**次へ**」をタップします。
5. 「**Windowsがインストールされているドライブのみ**」または「**すべてのドライブ**」のいずれかを選択します。
6. 「**ファイルの削除のみ行う**」または「**ドライブを完全にクリーンアップする**」のいずれかを選択します。
7. 「**初期状態に戻す**」をタップします。

重要：本機のリセットを行う前に、本機がACアダプターで電源に接続されていることをご確認ください。

注：ご使用環境などにより、手順などが異なる場合がありますが、その場合は、画面の指示に従って設定を進めてください。





詳細オプション

「**詳細オプション**」で本機に搭載の追加トラブルシューティングオプションを実行することができます。

POST中にアクセスする



1. システムを再起動し、POST中に を押します。



2. Windows®が「オプションの選択」を読み込むまで待機し、「**トラブルシューティング**」をタップします。
3. 「**詳細オプション**」をタップします。
4. 詳細オプション画面で、実行するトラブルシューティングオプションを選択します。
5. 以降の手順に従い、作業を完了します。

イメージでシステムを回復の使用

「**詳細オプション**」の「**イメージでシステムを回復**」オプションで、イメージファイルを使用したシステムリカバリーを実行することができます。

POST中にアクセスする



1. システムを再起動し、POST中に を押します。



2. Windows®が「オプションの選択」を読み込むまで待機し、「**トラブルシューティング**」をタップします。
3. 「**詳細オプション**」をタップします。







4. 詳細オプション画面で「**イメージでシステムを回復**」を選択します。
5. システムイメージファイルでリカバリーを行うアカウントを選択します。
6. アカウントのパスワードを入力し、「**続行**」をタップします。
7. 「**利用可能なシステムイメージのうち最新のものを使用する(推奨)**」を選択し、「**次へ**」をタップします。システムイメージが外部デバイスまたはDVD内にある場合は、「**システムイメージを選択する**」を選択することもできます。
8. 以降の手順に従い、リカバリー作業を完了します。

注：本機が万一動作を停止した場合に備え、データの損失を防ぐため定期的なシステムのバックアップを強くお勧めします。

注：ご使用環境などにより、手順などが異なる場合がありますが、その場合は、画面の指示に従って設定を進めてください。





光学ドライブ情報

Blu-rayディスク形式は、Windows Media Player ではサポートされていません。Blu-rayタイトルを表示するには、Blu-rayを再生することができるBlu-rayムービー再生ソフトウェアと、Blu-rayディスクの読み取りが可能なデバイスを使用する必要があります。Blu-rayドライブでは、多くの場合従来のCDとDVDディスクのどちらも使用することができます。

地域再生情報

Blu-ray/DVDムービータイトルの再生には、MPEGビデオの復号、デジタルオーディオ、CSS保護されたコンテンツの復号化が含まれます。CSS（コピーガードと呼ばれることもある）は動画産業が採用したコンテンツ保護計画の名称で、違法コピーを防ぐものです。

CSSライセンサに課された設計規則はたくさんありますが、もっとも適切な規則の一つは、地域化されたコンテンツに関する再生の制限です。場所によって異なるムービーのリリースを円滑にするために、Blu-ray/DVDビデオタイトルは下の「地域定義」で定義された特定の地域に対してリリースされています。著作権法は、全てのBlu-ray/DVDムービーを特定の地域（普通、販売されている地域に対してコード化されている）に限定するよう要求しており、Blu-ray/DVDムービーコンテンツは、複数の地域でリリースされるので、CSSの設計規則はCSSで暗号化されたコンテンツを再生できるどのシステムも、一つの地域でしか再生できないようになっています。



地域設定は再生ソフトウェアを使用して、5回まで変更することができます。5回変更後は、Blu-ray/DVDムービーは最後の地域設定に対してのみ再生することができます。







地域定義(DVD)

地域**1**

カナダ、米国、米国の領土

地域**2**

日本、チェコ、エジプト、フィンランド、フランス、ドイツ、
ペルシア湾岸諸国、ハンガリー、アイスランド、イラン、イラク、
アイルランド、イタリア、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、
サウジアラビア、スコットランド、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、
スイス、シリア、トルコ、イギリス、ギリシア、前ユーゴスラビア共和国、
スロバキア

地域**3**

ビルマ、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、
台湾、タイ、ベトナム

地域**4**

オーストラリア、西インド諸島(米国領土を除く)、中央アメリカ、
ニュージーランド、太平洋諸島、南アメリカ大陸

地域**5**

CIS、インド、パキスタン、その他のアフリカ諸国、ロシア、
朝鮮民主主義人民共和国

地域**6**

中国

地域定義(Blu-ray)

地域A

日本、南北アメリカ諸国、台湾、香港、マカオ、韓国、
朝鮮民主主義人民共和国、東南アジア諸国とその領土

地域B

ヨーロッパ諸国、アフリカ諸国、中近東諸国とその領土、
オーストラリア、ニュージーランド

地域C

中央・南アジア諸国、東ヨーロッパ諸国とその領土、中国、モンゴル



詳細はBlu-ray Disc のWebサイトをご参照ください。
http://www.blu-raydisc.com/en/Technical/FAQs/BlurayDiscforVideo.aspx







内蔵モデムの適応規格（規格/プロトコルなど原文掲載）

The Notebook PC with internal modem model complies with JATE (Japan), FCC (US, Canada, Korea, Taiwan), and CTR21. The internal modem has been approved in accordance with Council Decision 98/482/EC for pan-European single terminal connection to the public switched telephone network (PSTN). However due to differences between the individual PSTNs provided in different countries, the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point. In the event of problems you should contact your equipment supplier in the first instance.

Overview

On 4th August 1998 the European Council Decision regarding the CTR 21 has been published in the Official Journal of the EC. The CTR 21 applies to all non voice terminal equipment with DTMF-dialling which is intended to be connected to the analogue PSTN (Public Switched Telephone Network).

CTR 21 (Common Technical Regulation) for the attachment requirements for connection to the analogue public switched telephone networks of terminal equipment (excluding terminal equipment supporting the voice telephony justified case service) in which network addressing, if provided, is by means of dual tone multifrequency signalling.

Network Compatibility Declaration

Statement to be made by the manufacturer to the Notified Body and the vendor: “This declaration will indicate the networks with which the equipment is designed to work and any notified networks with which the equipment may have inter-working difficulties”







Network Compatibility Declaration

Statement to be made by the manufacturer to the user: “This declaration will indicate the networks with which the equipment is designed to work and any notified networks with which the equipment may have inter-working difficulties. The manufacturer shall also associate a statement to make it clear where network compatibility is dependent on physical and software switch settings. It will also advise the user to contact the vendor if it is desired to use the equipment on another network.”

Up to now the Notified Body of CETECOM issued several pan-European approvals using CTR 21. The results are Europe’s first modems which do not require regulatory approvals in each individual European country.

Non-Voice Equipment

Answering machines and loud-speaking telephones can be eligible as well as modems, fax machines, auto-dialers and alarm systems. Equipment in which the end-to-end quality of speech is controlled by regulations (e.g. handset telephones and in some countries also cordless telephones) is excluded.







This table shows the countries currently under the CTR21 standard.

Country	Applied	More Testing
Austria[1]	Yes	No
Belgium	Yes	No
Czech Republic	No	Not Applicable
Denmark[1]	Yes	Yes
Finland	Yes	No
France	Yes	No
Germany	Yes	No
Greece	Yes	No
Hungary	No	Not Applicable
Iceland	Yes	No
Ireland	Yes	No
Italy	Still Pending	Still Pending
Israel	No	No
Lichtenstein	Yes	No
Luxemburg	Yes	No
The Netherlands[1]	Yes	Yes
Norway	Yes	No
Poland	No	Not Applicable
Portugal	No	Not Applicable
Spain	No	Not Applicable
Sweden	Yes	No
Switzerland	Yes	No
United Kingdom	Yes	No







This information was copied from CETECOM and is supplied without liability. For updates to this table, you may visit http://www.cetecom.de/technologies/ctr_21.html

1 National requirements will apply only if the equipment may use pulse dialling (manufacturers may state in the user guide that the equipment is only intended to support DTMF signalling, which would make any additional testing superfluous).

In The Netherlands additional testing is required for series connection and caller ID facilities.







Declarations and Safety Statements（原文）

Federal Communications Commission Statement

This device complies with FCC Rules Part 15. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference.
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a class B digital device, pursuant to Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of a shielded-type power cord is required in order to meet FCC emission limits and to prevent interference to the nearby radio and television reception. It is essential that only the supplied power cord be used. Use only shielded cables to connect I/O devices to this equipment. You are cautioned that changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void your authority to operate the equipment.







(Reprinted from the Code of Federal Regulations #47, part 15.193, 1993. Washington DC: Office of the Federal Register, National Archives and Records Administration, U.S. Government Printing Office.)

FCC Radio Frequency (RF) Exposure Caution Statement



Any changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user' s authority to operate this equipment. "The manufacture declares that this device is limited to Channels 1 through 11 in the 2.4GHz frequency by specified firmware controlled in the USA."

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. To maintain compliance with FCC RF exposure compliance requirements, please avoid direct contact to the transmitting antenna during transmitting. End users must follow the specific operating instructions for satisfying RF exposure compliance.

Declaration of Conformity (R&TTE directive 1999/5/EC)

The following items were completed and are considered relevant and sufficient:

- Essential requirements as in [Article 3]
- Protection requirements for health and safety as in [Article 3.1a]
- Testing for electric safety according to [EN 60950]
- Protection requirements for electromagnetic compatibility in [Article 3.1b]
- Testing for electromagnetic compatibility in [EN 301 489-1] & [EN 301 489-17]
- Effective use of the radio spectrum as in [Article 3.2]
- Radio test suites according to [EN 300 328-2]







CE Mark Warning



CE marking for devices without wireless LAN/Bluetooth

The shipped version of this device complies with the requirements of the EEC directives 2004/108/EC "Electromagnetic compatibility" and 2006/95/EC "Low voltage directive".



CE marking for devices with wireless LAN/ Bluetooth

This equipment complies with the requirements of Directive 1999/5/EC of the European Parliament and Commission from 9 March, 1999 governing Radio and Telecommunications Equipment and mutual recognition of conformity.

IC Radiation Exposure Statement for Canada

This equipment complies with IC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. To maintain compliance with IC RF exposure compliance requirements, please avoid direct contact to the transmitting antenna during transmitting. End users must follow the specific operating instructions for satisfying RF exposure compliance.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause interference and
- This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

To prevent radio interference to the licensed service (i.e. co-channel Mobile Satellite systems) this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.





Wireless Operation Channel for Different Domains

N. America	2.412-2.462 GHz	Ch01 through CH11
Japan	2.412-2.484 GHz	Ch01 through Ch14
Europe ETSI	2.412-2.472 GHz	Ch01 through Ch13

France Restricted Wireless Frequency Bands

Some areas of France have a restricted frequency band. The worst case maximum authorized power indoors are:

- 10mW for the entire 2.4 GHz band (2400 MHz–2483.5 MHz)
- 100mW for frequencies between 2446.5 MHz and 2483.5 MHz


Channels 10 through 13 inclusive operate in the band 2446.6 MHz to 2483.5 MHz.

There are few possibilities for outdoor use: On private property or on the private property of public persons, use is subject to a preliminary authorization procedure by the Ministry of Defense, with maximum authorized power of 100mW in the 2446.5 –2483.5 MHz band. Use outdoors on public property is not permitted.

In the departments listed below, for the entire 2.4 GHz band:

- Maximum authorized power indoors is 100mW
- Maximum authorized power outdoors is 10mW

Departments in which the use of the 2400–2483.5 MHz band is permitted with an EIRP of less than 100mW indoors and less than 10mW outdoors:

01 Ain	02 Aisne	03 Allier
05 Hautes Alpes	08 Ardennes	09 Ariège
11 Aude	12 Aveyron	16 Charente
24 Dordogne	25 Doubs	26 Drôme
32 Gers	36 Indre	37 Indre et Loire
41 Loir et Cher	45 Loiret	50 Manche
55 Meuse	58 Nièvre	59 Nord







60 Oise	61 Orne
63 Puy du Dôme	64 Pyrénées Atlantique
66 Pyrénées Orientales	67 Bas Rhin
68 Haut Rhin	70 Haute Saône
71 Saône et Loire	75 Paris
82 Tarn et Garonne	84 Vaucluse
88 Vosges	89 Yonne
90 Territoire de Belfort	94 Val de Marne

This requirement is likely to change over time, allowing you to use your wireless LAN card in more areas within France. Please check with ART for the latest information (www.arcep.fr)



Your WLAN Card transmits less than 100mW, but more than 10mW.

Prevention of Hearing Loss

To prevent possible hearing damage, do not listen at high volume levels for long periods.









UL Safety Notices

Required for UL 1459 covering telecommunications (telephone) equipment intended to be electrically connected to a telecommunication network that has an operating voltage to ground that does not exceed 200V peak, 300V peak-to-peak, and 105V rms, and installed or used in accordance with the National Electrical Code (NFPA 70).

When using the Notebook PC modem, basic safety precautions should always be followed to reduce the risk of fire, electric shock, and injury to persons, including the following:

- DO NOT use the Notebook PC near water, for example, near a bath tub, wash bowl, kitchen sink or laundry tub, in a wet basement or near a swimming pool.
- DO NOT use the Notebook PC during an electrical storm. There may be a remote risk of electric shock from lightning.
- DO NOT use the Notebook PC in the vicinity of a gas leak.

Required for UL 1642 covering primary (nonrechargeable) and secondary (rechargeable) lithium batteries for use as power sources in products. These batteries contain metallic lithium, or a lithium alloy, or a lithium ion, and may consist of a single electrochemical cell or two or more cells connected in series, parallel, or both, that convert chemical energy into electrical energy by an irreversible or reversible chemical reaction.

- Do not dispose the Notebook PC battery pack in a fire, as they may explode. Check with local codes for possible special disposal instructions to reduce the risk of injury to persons due to fire or explosion.
- Do not use power adapters or batteries from other devices to reduce the risk of injury to persons due to fire or explosion. Use only UL certified power adapters or batteries supplied by the manufacturer or authorized retailers.







Power Safety Requirement

Products with electrical current ratings up to 6A and weighing more than 3Kg must use approved power cords greater than or equal to: H05VV-F, 3G, 0.75mm^2 or H05VV-F, 2G, 0.75mm^2.

REACH

Complying with the REACH (Registration, Evaluation, Authorization, and Restriction of Chemicals) regulatory framework, we publish the chemical substances in our products at ASUS REACH website at http://green.asus.com/english/REACH.htm.

電気・電子機器に含有される化学物質の表示について 

資源有効利用促進法では、JIS C 0950: 2008（J-Moss）の定める規格により、製造元に対し特定の電気・電子機器に含まれる化学物質の情報提供を義務付けています。J-Moss とは、電気・電子機器に含有される化学物質の表示に関するJIS規格の略称で、正式名称は「The marking when content other than exemption does not exceed reference value of percentage content（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）」です。なお、この規格は2008年8月1日より適用されています。

この規格に関する詳細情報はASUSのサイト（http://green.asus.com/english/）に記載の「The marking when content other than exemption does not exceed reference value of percentage content（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）」をご参照ください。





Nordic Lithium Cautions (リチウムバッテリーについて)

CAUTION! Danger of explosion if battery is incorrectly replaced. Replace only with the same or equivalent type recommended by the manufacturer. Dispose of used batteries according to the manufacturer's instructions. (English)

ATTENZIONE! Rischio di esplosione della batteria se sostituita in modo errato. Sostituire la batteria con un una di tipo uguale o equivalente consigliata dalla fabbrica. Non disperdere le batterie nell'ambiente. (Italian)

VORSICHT! Explosionsgefahr bei unsachgemäßen Austausch der Batterie. Ersatz nur durch denselben oder einem vom Hersteller empfohlenem ähnlichen Typ. Entsorgung gebrauchter Batterien nach Angaben des Herstellers. (German)

ADVARSELI! Lithiumbatteri - Eksplosionsfare ved fejlagtig håndtering. Udskiftning må kun ske med batteri af samme fabrikat og type. Levér det brugte batteri tilbage til leverandøren. (Danish)

VARNING! Explosionsfara vid felaktigt batteribyte. Använd samma batterityp eller en ekvivalent typ som rekommenderas av apparattillverkaren. Kassera använt batteri enligt fabrikantens instruktion. (Swedish)

VAROITUS! Paristo voi räjähtää, jos se on virheellisesti asennettu. Vaihda paristo ainoastaan laitevalmistajan sousittelemaan tyyppiin. Hävitä käytetty paristo valmistagan ohjeiden mukaisesti. (Finnish)

ATTENTION! Il y a danger d'explosion s'il y a remplacement incorrect de la batterie. Remplacer uniquement avec une batterie du mêre type ou d'un type équivalent recommandé par le constructeur. Mettre au rebut les batteries usagées conformément aux instructions du fabricant. (French)

ADVARSEL! Eksplosjonsfare ved feilaktig skifte av batteri. Benytt samme batteritype eller en tilsvarende type anbefalt av apparatfabrikanten. Brukte batterier kasseres i henhold til fabrikantens instruksjoner. (Norwegian)

注意：バッテリーの交換は正しく行ってください。破裂する危険があります。交換の際は、メーカーが指定したバッテリーをお使いください。また、廃棄の際は家庭ゴミとまとめて捨てずに、最寄の廃棄物処理施設等に問い合わせ、バッテリーの処分方法を確認してください。(Japanese)

ВНИМАНИЕ! При замене аккумулятора на аккумулятор иного типа возможно его возгорание. Утилизируйте аккумулятор в соответствии с инструкциями производителя. (Russian)







Optical Drive Safety Information

Laser Safety Information

Internal or external optical drives sold with this Notebook PC contains a CLASS 1 LASER PRODUCT.



WARNING! Making adjustments or performing procedures other than those specified in the user's manual may result in hazardous laser exposure. Do not attempt to disassemble the optical drive. For your safety, have the optical drive serviced only by an authorized service provider.

Service warning label



CAUTION! INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. DO NOT STARE INTO BEAM OR VIEW DIRECTLY WITH OPTICAL INSTRUMENTS.

CDRH Regulations

The Center for Devices and Radiological Health (CDRH) of the U.S. Food and Drug Administration implemented regulations for laser products on August 2, 1976. These regulations apply to laser products manufactured from August 1, 1976. Compliance is mandatory for products marketed in the United States.



WARNING! Use of controls or adjustments or performance of procedures other than those specified herein or in the laser product installation guide may result in hazardous radiation exposure.

Macrovision Corporation Product Notice

This product incorporates copyright protection technology that is protected by method claims of certain U.S.A. patents and other intellectual property rights owned by Macrovision Corporation and other rights owners. Use of this copyright protection technology must be authorized by Macrovision Corporation, and is intended for home and other limited viewing uses only *unless otherwise authorized by Macrovision Corporation*. Reverse engineering or disassembly is prohibited.







CTR 21 Approval（モデム内蔵型ノートパソコン）

Danish

»Udstyret er i henhold til Rådets beslutning 98/482/EF EU-godkendt til at blive opkoblet på de offentlige telefonnet som enkeltforbundet terminal. På grund af forskelle mellem de offentlige telefonnet i de forskellige lande giver godkendelsen dog ikke i sig selv ubetinget garanti for, at udstyret kan fungere korrekt på samtlige nettermineringspunkter på de offentlige telefonnet.

I tilfælde af problemer bør De i første omgang henvende Dem til leverandøren af udstyret.«

Dutch

„Dit apparaat is goedgekeurd volgens Beschikking 98/482/EG van de Raad voor de pan-Europese aansluiting van enkelvoudige eindapparatuur op het openbare geschakelde telefoonnetwerk (PSTN). Gezien de verschillen tussen de individuele PSTN's in de verschillende landen, biedt deze goedkeuring op zichzelf geen onvoorwaardelijke garantie voor een succesvolle werking op elk PSTN-netwerkaansluitpunt.

Neem bij problemen in eerste instantie contact op met de leverancier van het apparaat.".

English

'The equipment has been approved in accordance with Council Decision 98/482/EC for pan-European single terminal connection to the public switched telephone network (PSTN). However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries, the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.'

Finnish

"Tämä laite on hyväksytty neuvoston päätöksen 98/482/EY mukaisesti liitettäväksi yksittäisenä laitteena yleiseen kytkentäiseen puhelinverkkoon (PSTN) EU:n jäsenvaltioissa. Eri maiden yleisten kytkentäisten puhelinverkkojen välillä on kuitenkin eroja, joten hyväksyntä ei sellaisenaan takaa häiriötöntä toimintaa kaikkien yleisten kytkentäisten puhelinverkkojen liityntäpisteissä.

Ongelmien ilmetessä ottakaa viipymättä yhteyttä laitteen toimittajaan."

French

«Cet équipement a reçu l'agrément, conformément à la décision 98/482/CE du Conseil, concernant la connexion paneuropéenne de terminal unique aux réseaux téléphoniques publics commutés (RTPC). Toutefois, comme il existe des différences d'un pays à l'autre entre les RTPC, l'agrément en soi ne constitue pas une garantie absolue de fonctionnement optimal à chaque point de terminaison du réseau RTPC.

En cas de problème, vous devez contacter en premier lieu votre fournisseur.»

German

„Dieses Gerät wurde gemäß der Entscheidung 98/482/EG des Rates europaweit zur Anschaltung als einzelne Endeinrichtung an das öffentliche Fernsprechnetz zugelassen. Aufgrund der zwischen den öffentlichen Fernsprechnetzen verschiedener Staaten bestehenden Unterschiede stellt diese Zulassung an sich jedoch keine unbedingte Gewähr für einen erfolgreichen Betrieb des Geräts an jedem Netzabschlußpunkt dar.

Falls beim Betrieb Probleme auftreten, sollten Sie sich zunächst an ihren Fachhändler wenden."

Greek

«Ο εξοπλισμός έχει εγκριθεί για πανευρωπαϊκή σύνδεση μεμονωμέου τερματικού με το δημόσιο τηλεφωνικό δίκτυο μεταγωγής (PSTN), σύμφωνα με την απόφαση 98/482/ΕΚ του Συμβουλίου· ωστόσο, επειδή υπάρχουν διαφορές μεταξύ των επιμέρους PSTN που παρέχονται σε διάφορες χώρες, η έγκριση δεν παρέχει αφ' εαυτής ανεπιφύλακτη εξασφάλιση επιτυχούς λειτουργίας σε κάθε σημείο απόληξης του δικτύου PSTN.

Εάν ανακύψουν προβλήματα, θα πρέπει κατ' αρχάς να απευθύνεστε στον προμηθευτή του εξοπλισμού σας.»

Italian

«La presente apparecchiatura terminale è stata approvata in conformità della decisione 98/482/CE del Consiglio per la connessione paneuropea come terminale singolo ad una rete analogica PSTN. A causa delle differenze tra le reti dei differenti paesi, l'approvazione non garantisce però di per sé il funzionamento corretto in tutti i punti di terminazione di rete PSTN.

In caso di problemi contattare in primo luogo il fornitore del prodotto.»

Portuguese

«Este equipamento foi aprovado para ligação pan-europeia de um único terminal à rede telefónica pública comutada (RTPC) nos termos da Decisão 98/482/CE. No entanto, devido às diferenças existentes entre as RTPC dos diversos países, a aprovação não garante incondicionalmente, por si só, um funcionamento correcto em todos os pontos terminais da rede da RTPC.

Em caso de problemas, deve entrar-se em contacto, em primeiro lugar, com o fornecedor do equipamento.»







Spanish

«Este equipo ha sido homologado de conformidad con la Decisión 98/482/CE del Consejo para la conexión paneuropea de un terminal simple a la red telefónica pública conmutada (RTPC). No obstante, a la vista de las diferencias que existen entre las RTPC que se ofrecen en diferentes países, la homologación no constituye por sí sola una garantía incondicional de funcionamiento satisfactorio en todos los puntos de terminación de la red de una RTPC.

En caso de surgir algún problema, procede ponerse en contacto en primer lugar con el proveedor del equipo.».

Swedish

”Utrustningen har godkänts i enlighet med rådets beslut 98/482/EG för alleuropeisk anslutning som enskild terminal till det allmänt tillgängliga kopplade telenätet (PSTN). På grund av de skillnader som finns mellan telenätet i olika länder utgör godkännandet emellertid inte i sig självt en absolut garanti för att utrustningen kommer att fungera tillfredsställande vid varje telenätsanslutningspunkt.

Om problem uppstår bör ni i första hand kontakta leverantören av utrustningen.”

Japanese

本装置は、第二種情報装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)基準に適合しております。

しかし、本装置をラジオ、テレビジョン受信機に、近接してご使用になると、受信障害の原因となることがあります。本書の説明にしたがって正しい取り扱いをしてください。

本製品を日本で使用する場合は必ず日本国モードでご使用ください。他国のモードをご使用になると電気通信事業法 (技術基準) に違反す行為となります。なお、ご購入時は初期値が日本国モードとなっておりますので、そのままご利用ください。





ENERGY STAR complied product



ENERGY STAR is a joint program of the U.S. Environmental Protection Agency and the U.S. Department of Energy helping us all save money and protect the environment through energy efficient products and practices.

All ASUS products with the ENERGY STAR logo comply with the ENERGY STAR standard, and the power management feature is enabled by default. The monitor and computer are automatically set to sleep after 15 and 30 minutes of user inactivity. To wake your computer, click the mouse or press any key on the keyboard. Please visit http://www.energy.gov/powermanagement for detail information on power management and its benefits to the environment. In addition, please visit http://www.energystar.gov for detail information on the ENERGY STAR joint program.

回収とリサイクルについて

使用済みのコンピューター、ノートパソコン等の電子機器には、環境に悪影響を与える有害物質が含まれており、通常のゴミとして廃棄することはできません。リサイクルによって、使用済みの製品に使用されている金属部品、プラスチック部品、各コンポーネントは粉砕され新しい製品に再使用されます。また、その他のコンポーネントや部品、物質も正しく処分・処理されることで、有害物質の拡散の防止となり、環境を保護することに繋がります。







Copyright について

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証も行いません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、内容は予告なしに 変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容についてASUSは責任を負いません。







責任制限

この責任制限はASUSの、或は他の責任の不履行により、ユーザーがASUSから損害賠償を受ける権利が生じた場合に発生します。

このようなケースが発生した場合は、ユーザーのASUSに損害賠償を請求する権利の有無にかかわらず、ASUSは肉体的損害（死亡したケースを含む）と不動産及び有形動産への損害のみに賠償責任を負います。或は、それぞれの製品の記載された協定価格を限度とし、「Warranty Statement」のもとに生じる法的義務の不作為または不履行に起因するいかなる実害と直接的な被害のみに対して賠償責任を負います。

ASUSは「Warranty Statement」に基づき、不法行為または侵害行為が発生した場合と、契約に基づく損失や損害が生じた場合及びその主張に対してのみ賠償し、責任を負います。

この責任制限は、ASUSの供給者または販売代理店にも適用されます。賠償の際は、ASUSとその供給者及び購入した販売代理店を一集合体としてその限度額を定めており、その限度額に応じた賠償が行われます。

以下のケースに対しては、ASUSとその供給者及び販売代理店がその可能性を指摘されている場合においても、ASUSはいかなる賠償及び保証を行いません。

(1) ユーザーが第三者から請求されている申し立て
(2) ユーザーの個人情報やデータの損失
(3) 特殊、偶発的、或は間接的な損害、または 貯蓄や諸利益を含むあらゆる結果的な経済的損害

サービスとサポート

マルチ言語サポートサイトを開設しました。下のリンクで「Language」から「Japanese」を選択してください。

http://support.asus.com

Manufacturer	ASUSTek COMPUTER INC.
Address, City	No. 150, LI-TE RD., PEITOU, TAIPEI 112, TAIWAN
Country	TAIWAN
Authorized Representative in Europe	ASUS COMPUTER GmbH
Address, City	HARKORT STR. 21-23, 40880 RATINGEN
Country	GERMANY







